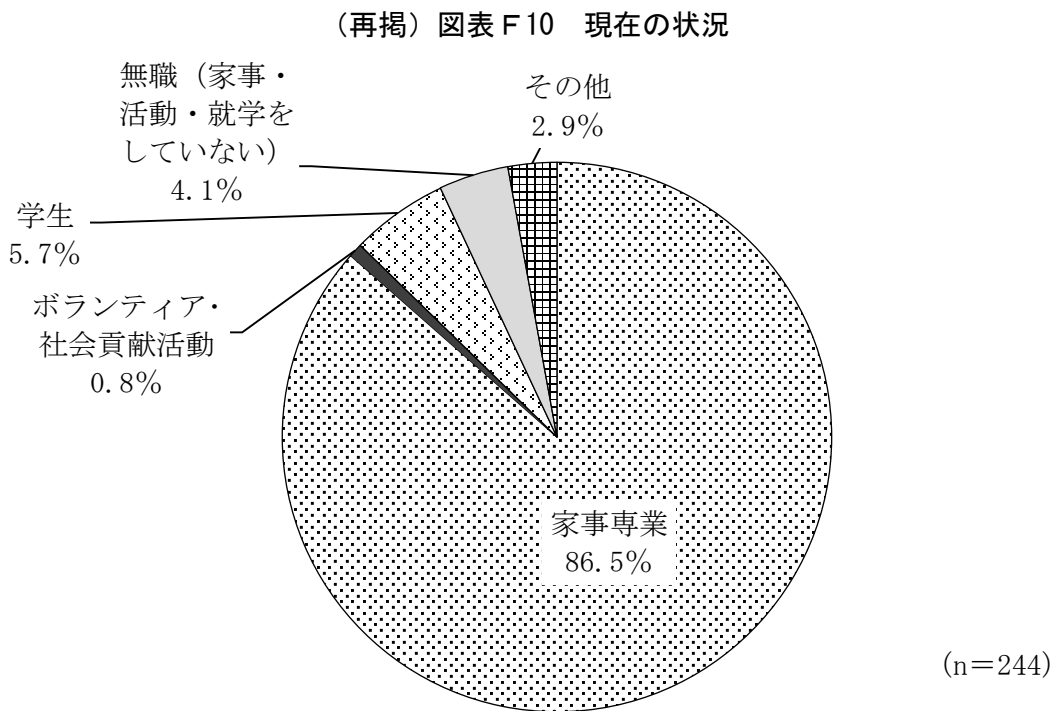


第3部 調査結果の分析 - 現在、収入を伴う仕事をしていない人について

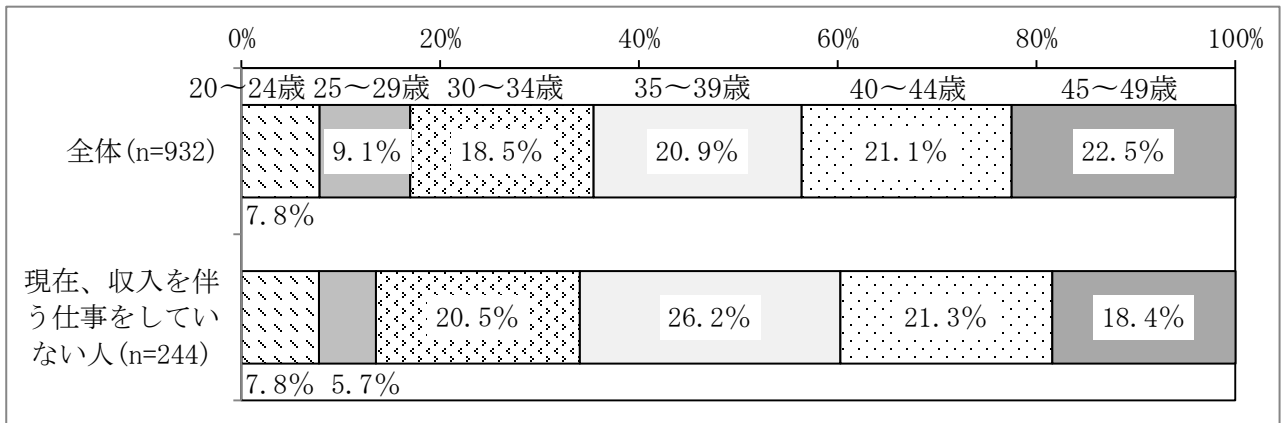
ここでは、現在の就業状況について、「現在、収入を伴う仕事をしていない」と回答した 244 人に対し、過去の仕事の経験や、現在、仕事をしていない理由、過去に就いていた仕事を辞めた理由、今後の就業意向、今後、仕事をする上で不安に思っていること、就職・再就職するために必要だと思う行政からの支援などについてたずねた。

「現在、収入を伴う仕事をしていない」人（244 人）の年齢等の内訳は次のとおりである。

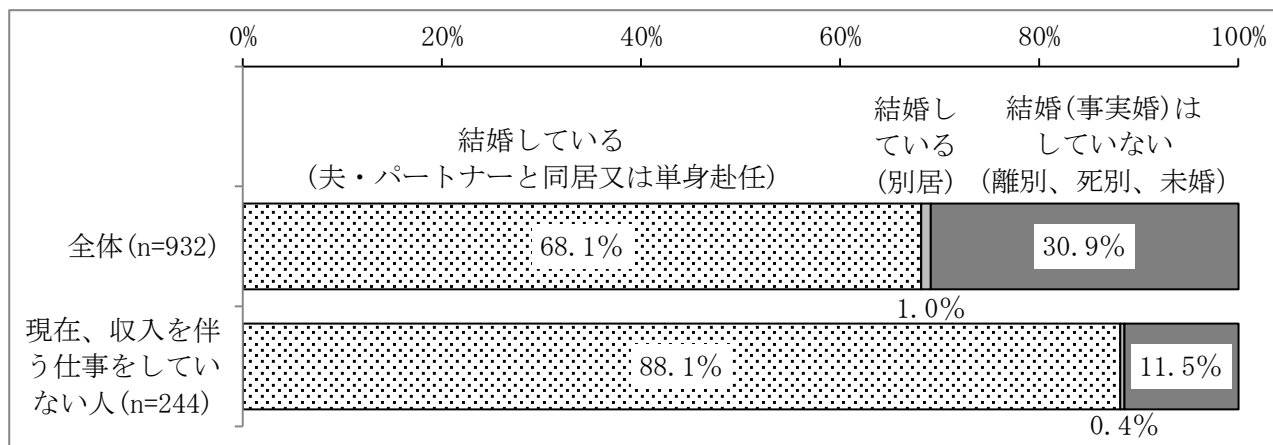
【現在の状況】（図表 F 10 再掲）



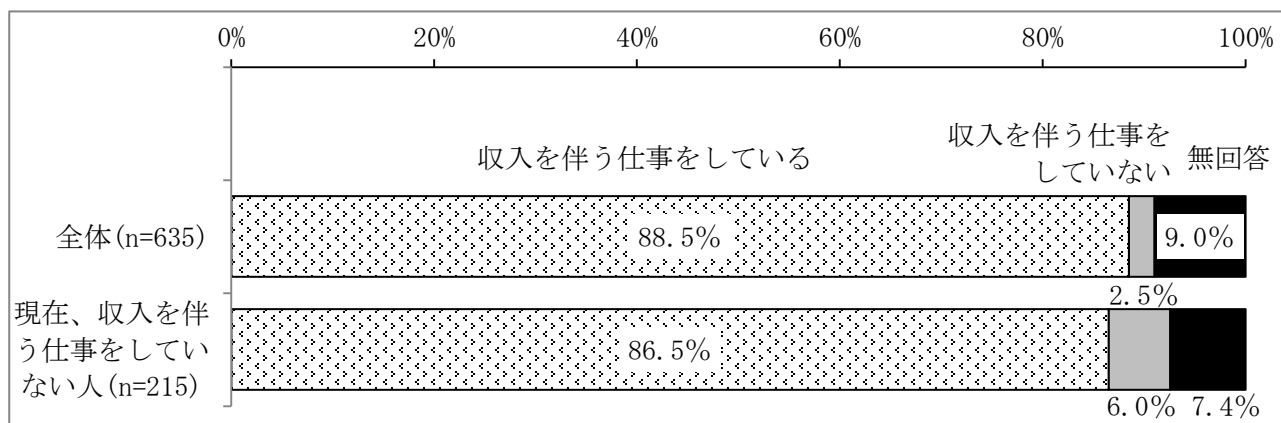
【年齢】



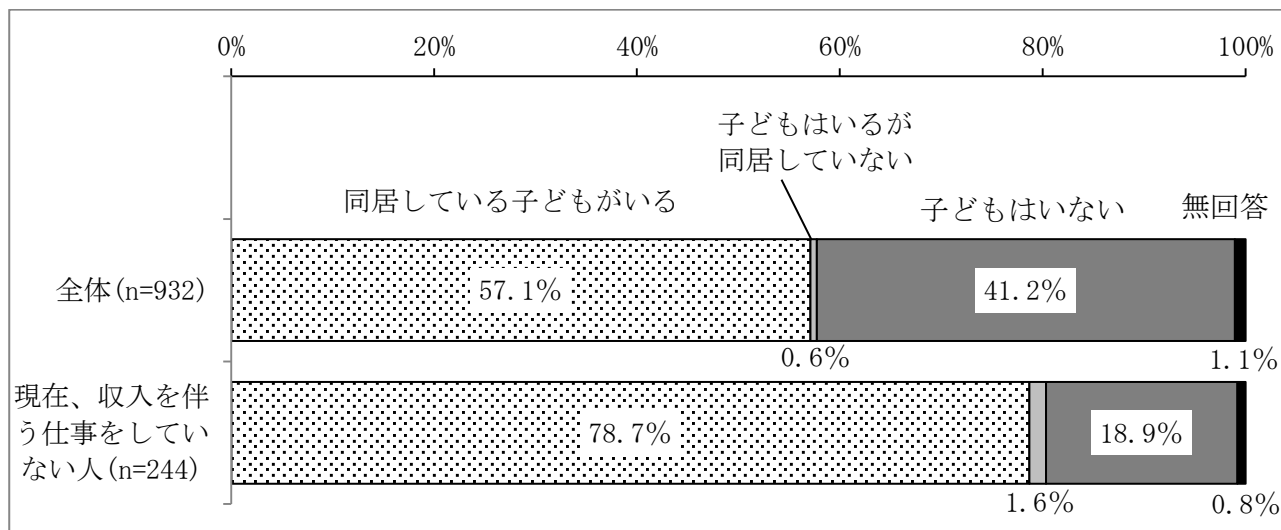
【結婚の有無】



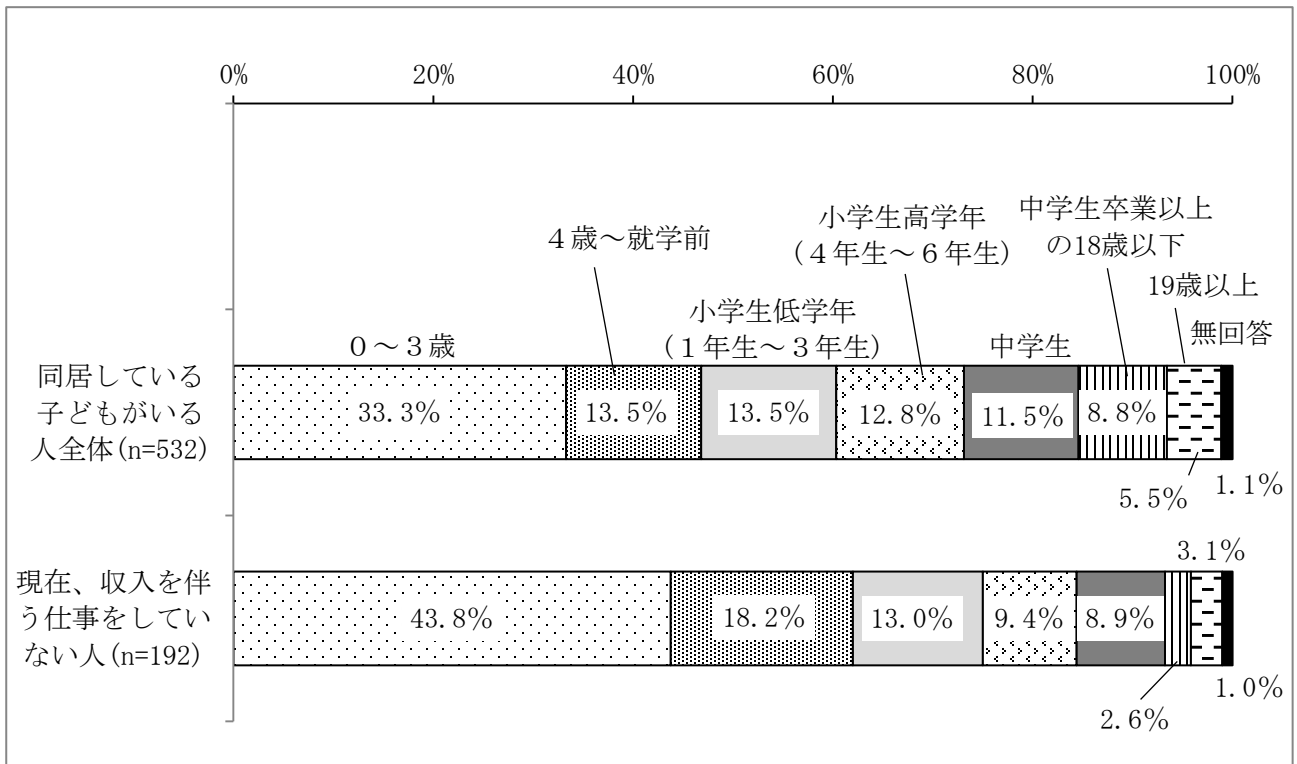
【夫・パートナーの就業状況】



【子どもの有無】



【末子の年齢】



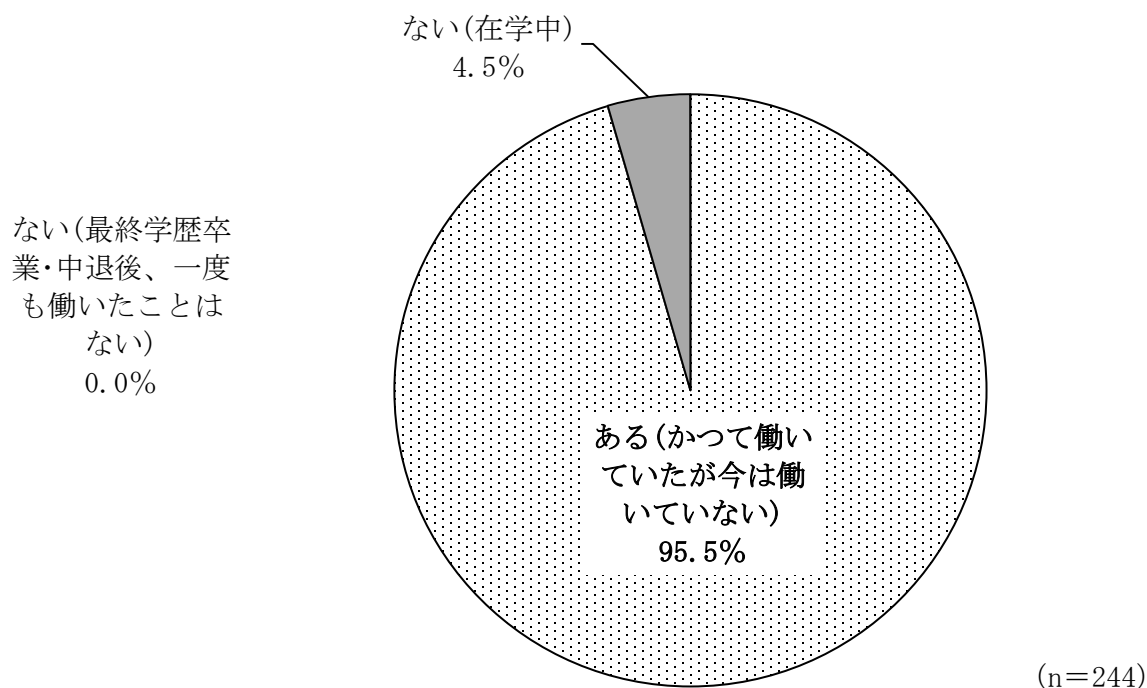
1 過去の仕事の経験（問1）

「現在、収入を伴う仕事をしていない」人（244人）に、過去に収入を伴う仕事をしていたことがあるかをたずねたところ、95.5%の人が「ある（かつて働いていたが今は働いていない）」と回答した。

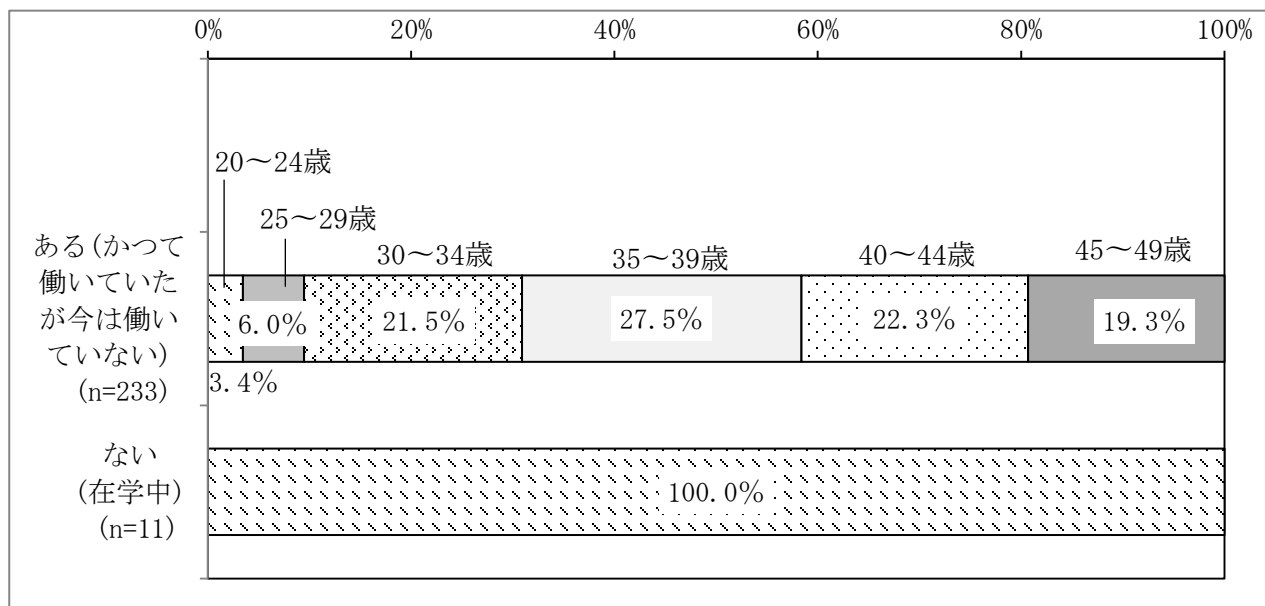
また、「ない」と回答した人（4.5%、11人）は、全員、20～24歳で在学中であり、「最終学歴卒業・中退後、一度も働いたことはない」人は0人だった。

※以下、過去に収入を伴う仕事をしていたことが「ある（かつて働いていたが今は働いていない）」と回答した人（95.5%、233人）を「過去に仕事の経験がある人」という。

図表1 過去の仕事の経験



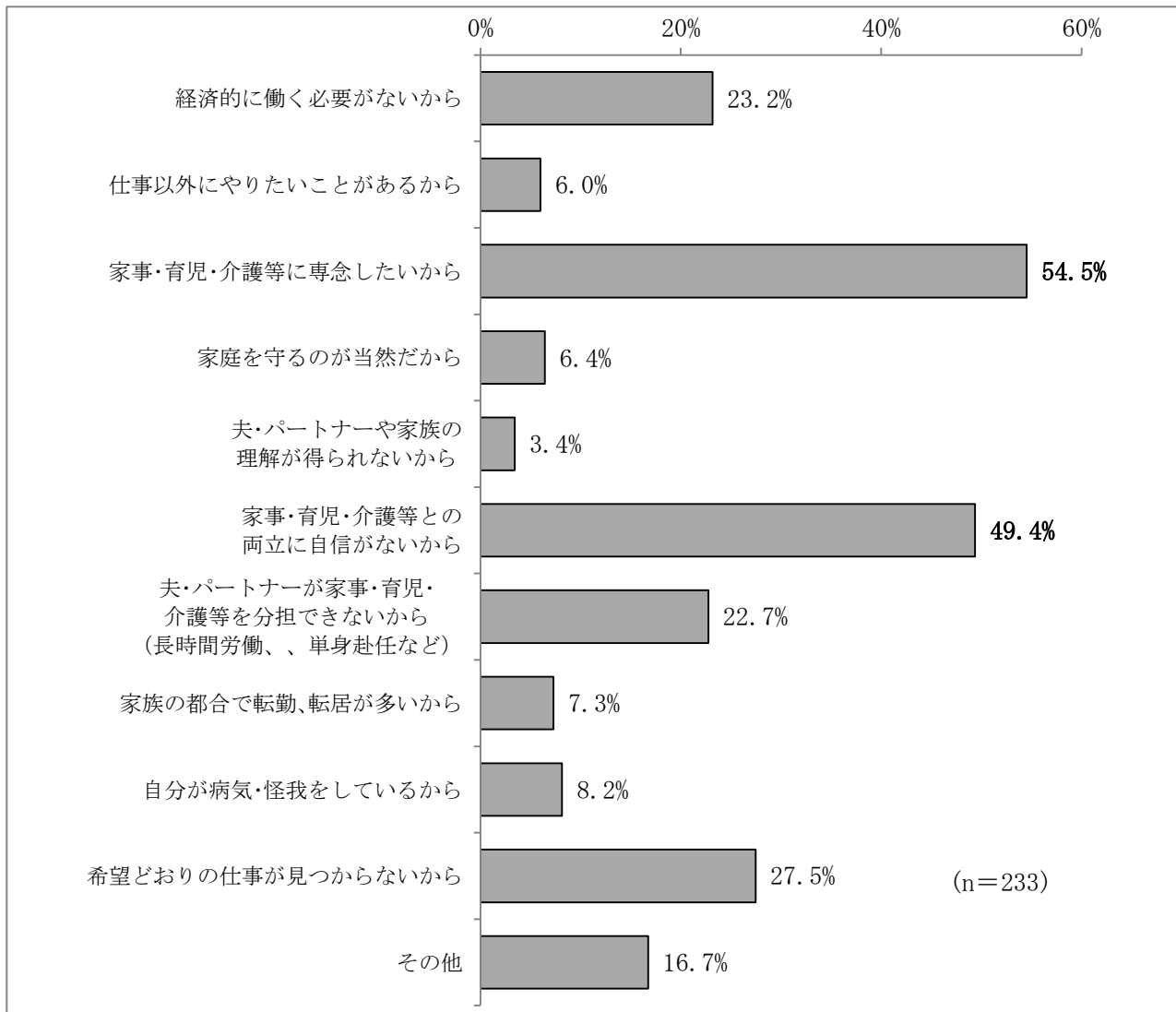
図表1-【年齢別】



2 現在、仕事をしていない理由（問2）

過去に仕事の経験のある人（233人）に、現在、仕事をしていない理由をたずねたところ「家事・育児・介護等に専念したいから」が54.5%と最も多く、次いで「家事・育児・介護等との両立に自信がないから」（49.4%）であった。家事・育児・介護等との両立が、女性の就業において最も大きな課題となっていることがうかがえる。

図表2 現在、仕事をしていない主な理由（3つまで複数回答）

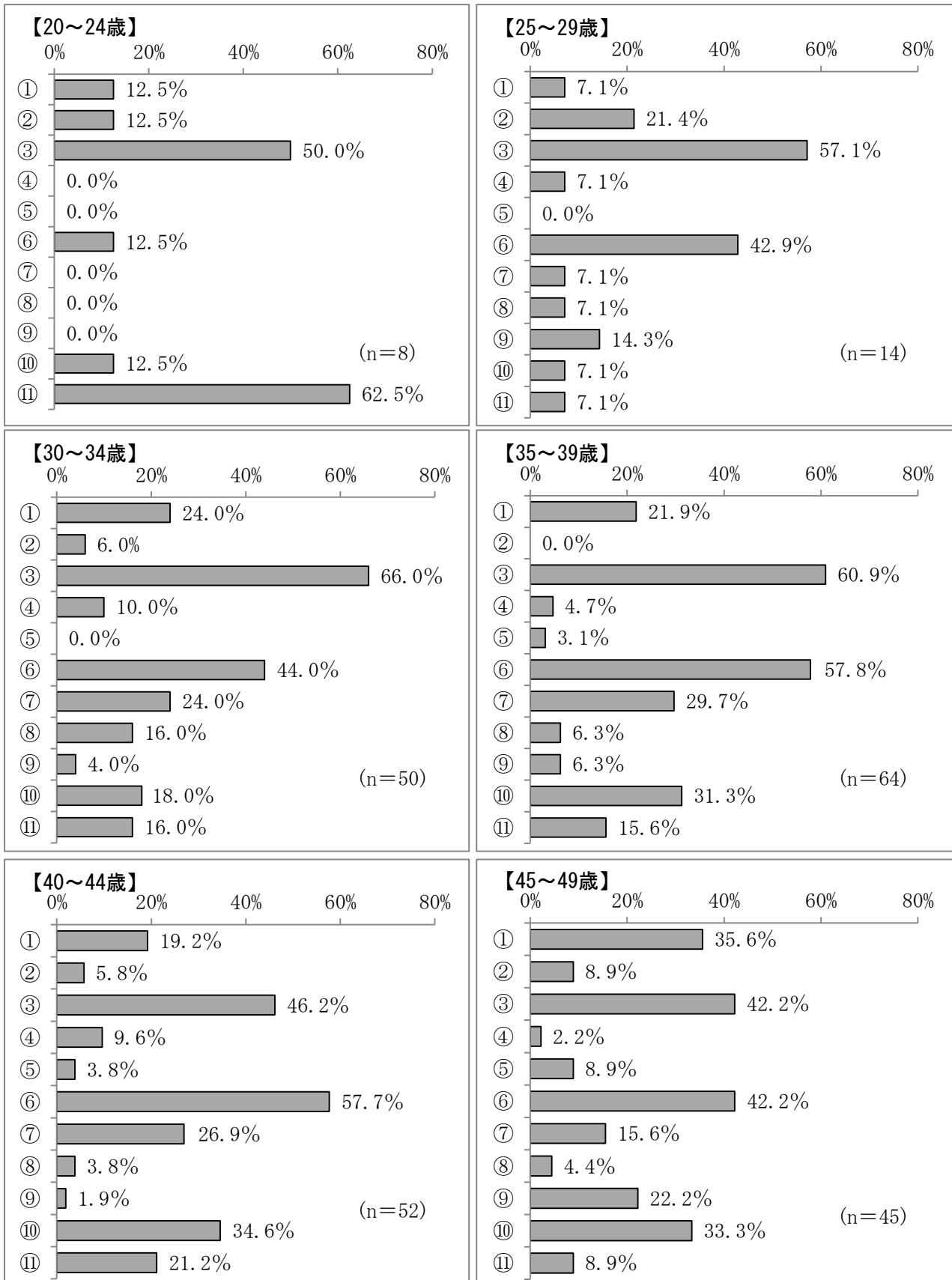


(1) 年齢別にみた現在、仕事をしていない主な理由

次ページの図表2-(1)に示すように、年齢別にみると、すべての年代を通じて、③「家事・育児・介護等に専念したいから」及び⑥「家事・育児・介護等との両立に自信がないから」は高い割合となっているが、25歳～39歳では③「家事・育児・介護等に専念したいから」（57.1%）が最も大きな理由で、全体（54.5%）より高いのに対し、40歳～44歳では、⑥「家事・育児・介護等との両立に自信がないから」（57.7%）の方が多く、全体（49.4%）よりも高くなっている。

また、35歳以降、⑩「希望どおりの仕事が見つからないから」が、全体（27.5%）よりも高い割合で挙げられている。

図表 2-(1) 年齢別 現在、仕事をしていない主な理由（3つまで複数回答）

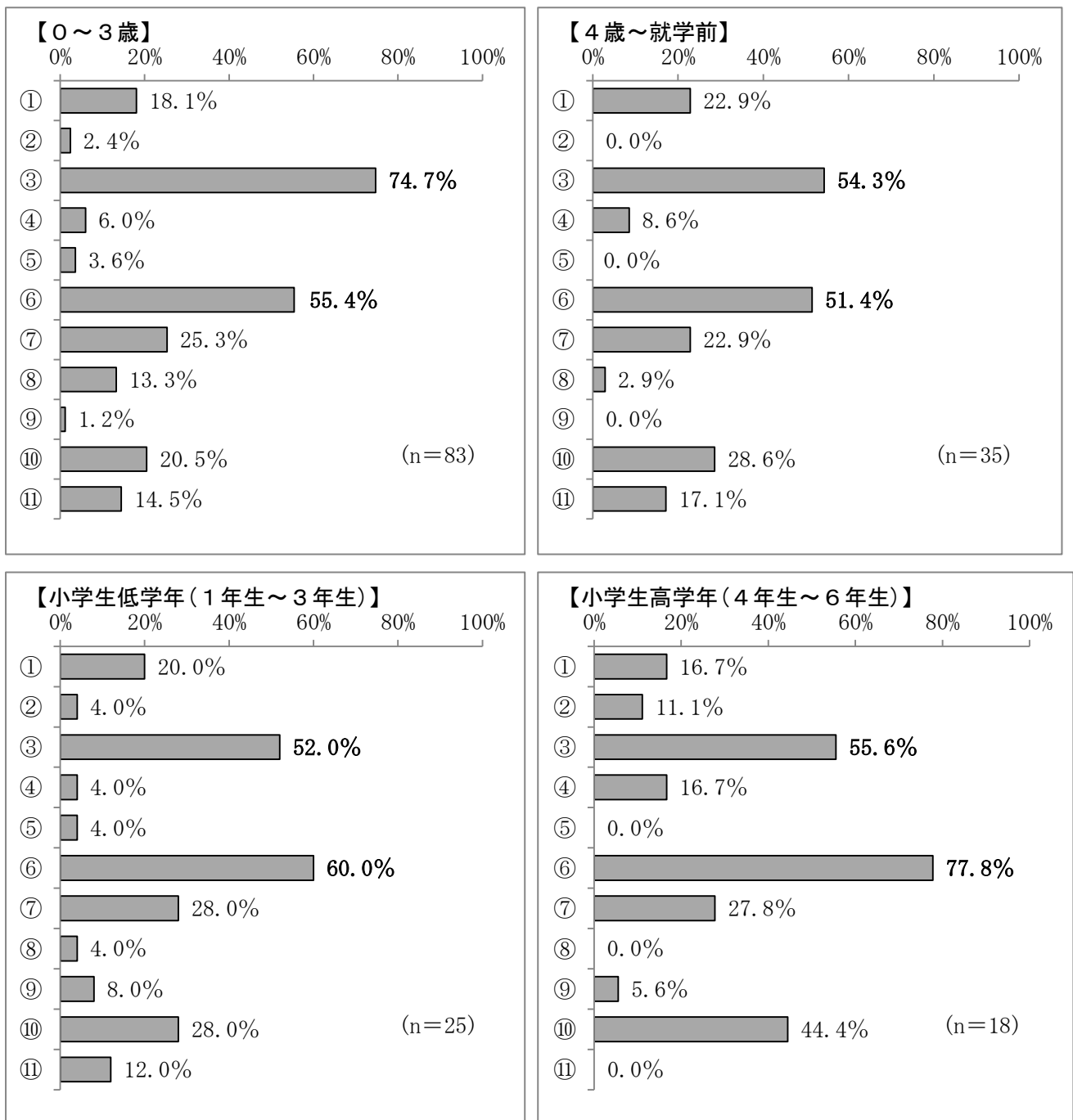


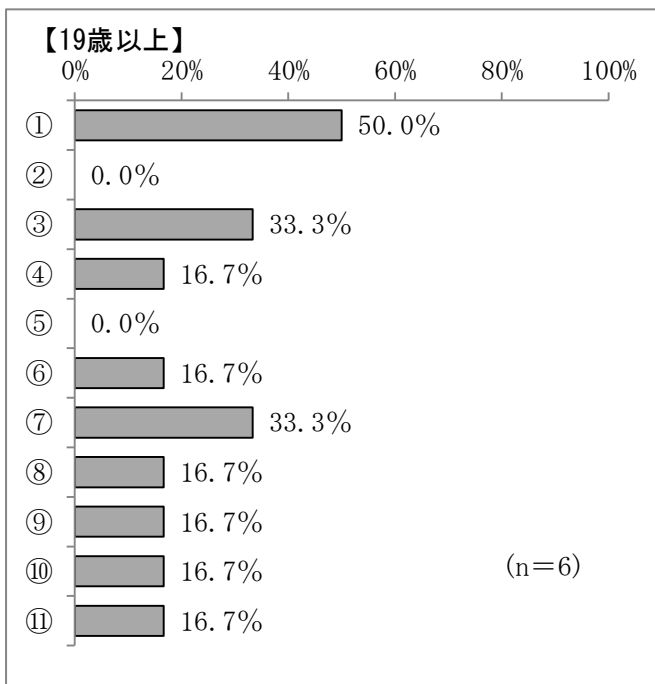
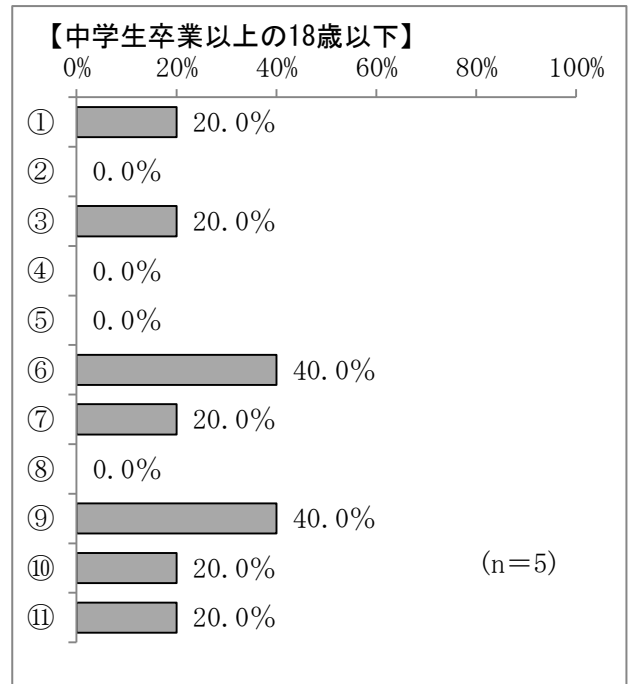
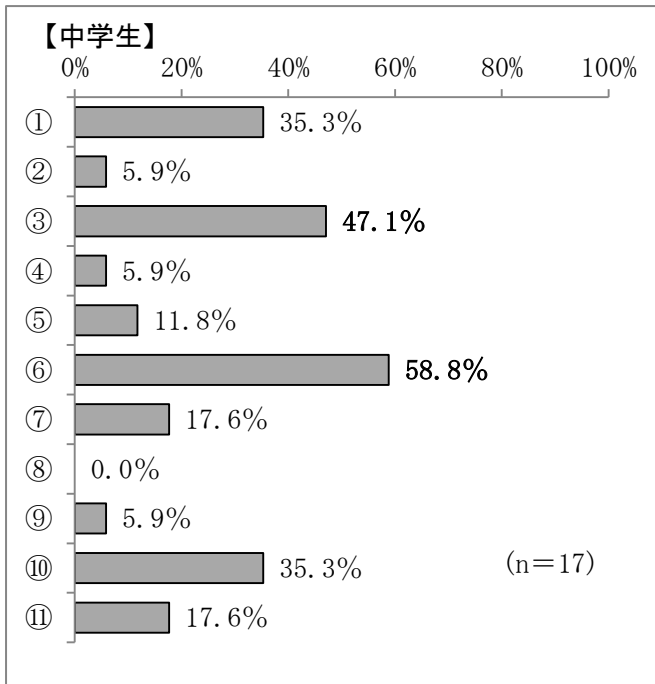
①経済的に働く必要がないから、②仕事以外にやりたいことがあるから、③家事・育児・介護等に専念したいから、④家庭を守るのが当然だから、⑤夫・パートナーや家族の理解が得られないから、⑥家事・育児・介護等との両立に自信がないから、⑦夫・パートナーが家事・育児・介護等を分担できないから（長時間労働、単身赴任など）、⑧家族の都合で転勤、転居が多いから、⑨自分が病気・怪我をしているから、⑩希望どおりの仕事が見つからないから、⑪その他

(2) 末子の年齢別にみた現在、仕事をしていない主な理由

末子の年齢別に現在、仕事をしていない主な理由をみると、末子が就学前の人は③「家事・育児・介護等に専念したいから」の割合が最も高く、次に⑥「家事・育児・介護等との両立に自信がないから」が高い。しかし、末子が小学生から中学生の人は、逆転して、⑥「家事・育児・介護等との両立に自信がないから」が最も高く、次に③「家事・育児・介護等に専念したいから」の割合が高くなる。子どもが就学しても、仕事と家事・育児・介護等との両立への自信のなさが、仕事に就く上での課題になっている。

図表 2-(2) 末子の年齢別 現在、仕事をしていない主な理由（3つまで複数回答）





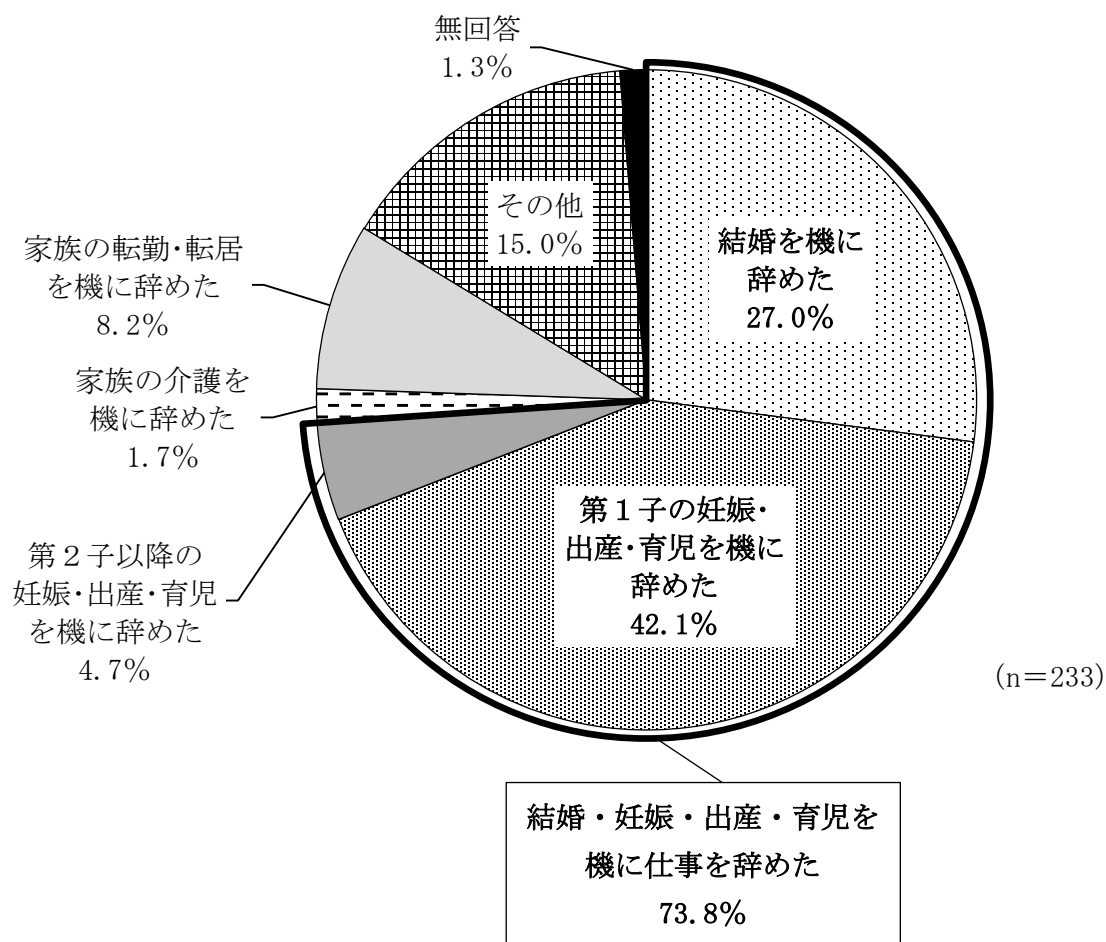
①経済的に働く必要がないから、②仕事以外にやりたいことがあるから、③家事・育児・介護等に専念したいから、④家庭を守るのが当然だから、⑤夫・パートナーや家族の理解が得られないから、⑥家事・育児・介護等との両立に自信がないから、⑦夫・パートナーが家事・育児・介護等を分担できないから（長時間労働、単身赴任など）、⑧家族の都合で転勤、転居が多いから、⑨自分が病気・怪我をしているから、⑩希望どおりの仕事が見つからないから、⑪その他

3 仕事を辞めた時期（問3）

過去に仕事の経験のある人（233人）に、仕事を辞めた時期をたずねたところ、「第1子の妊娠・出産・育児を機に辞めた」（42.1%）が最も多く、次いで「結婚を機に辞めた」（27.0%）だった。

「第2子以降の妊娠・出産・育児を機に辞めた」（4.7%）を合わせると、全体の4分の3近く（73.8%）が、結婚・妊娠・出産・育児を機に仕事を辞めている。

図表3 仕事を辞めた時期

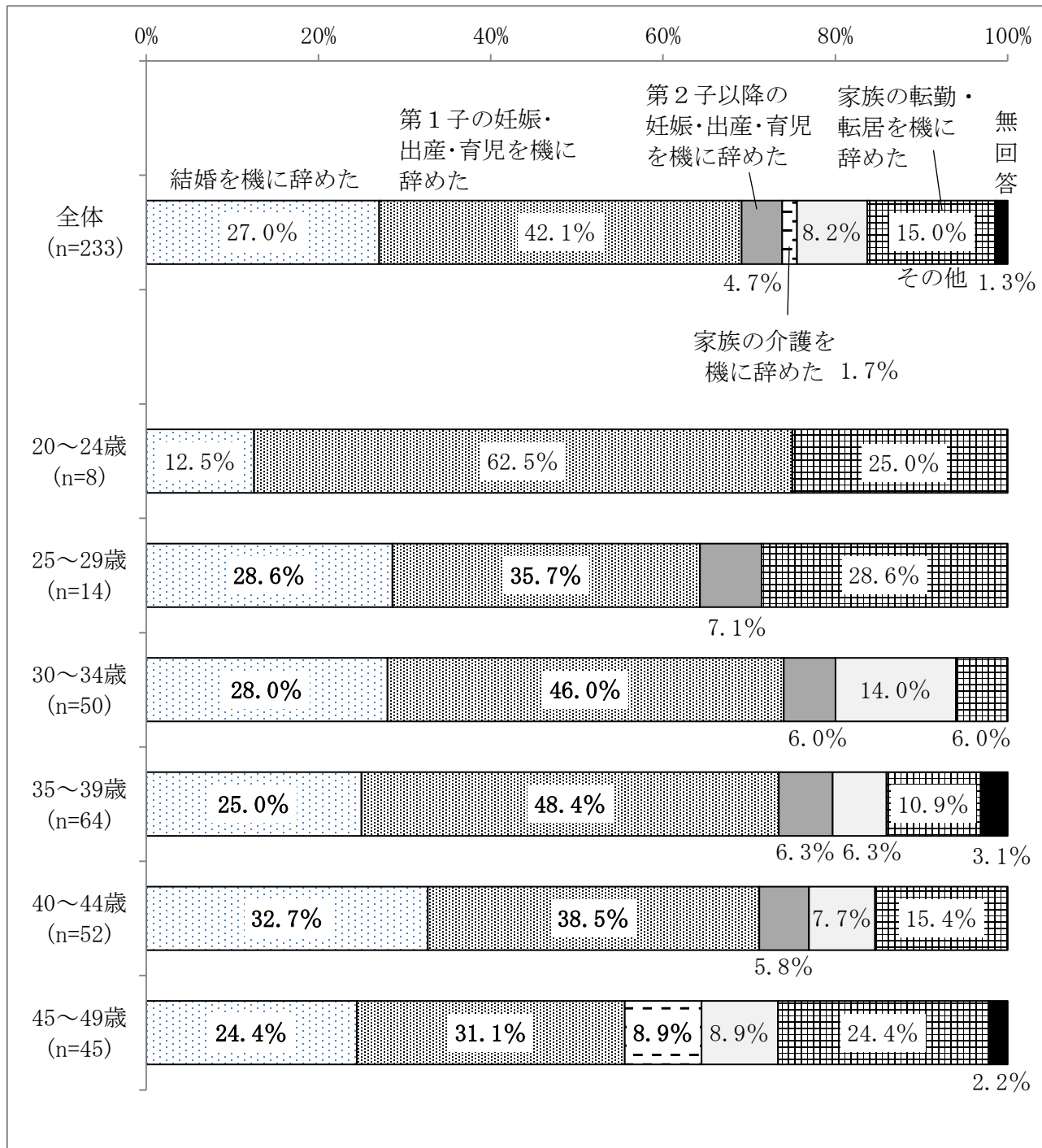


(1) 年齢別にみた仕事を辞めた時期

仕事を辞めた時期を年齢別にみると、いずれの年齢においても、「第1子の妊娠・出産・育児を機に辞めた」人及び「結婚を機に辞めた」人が多い。

また、45～49歳においてのみ、「家族の介護を機に辞めた」人が8.9%いる。

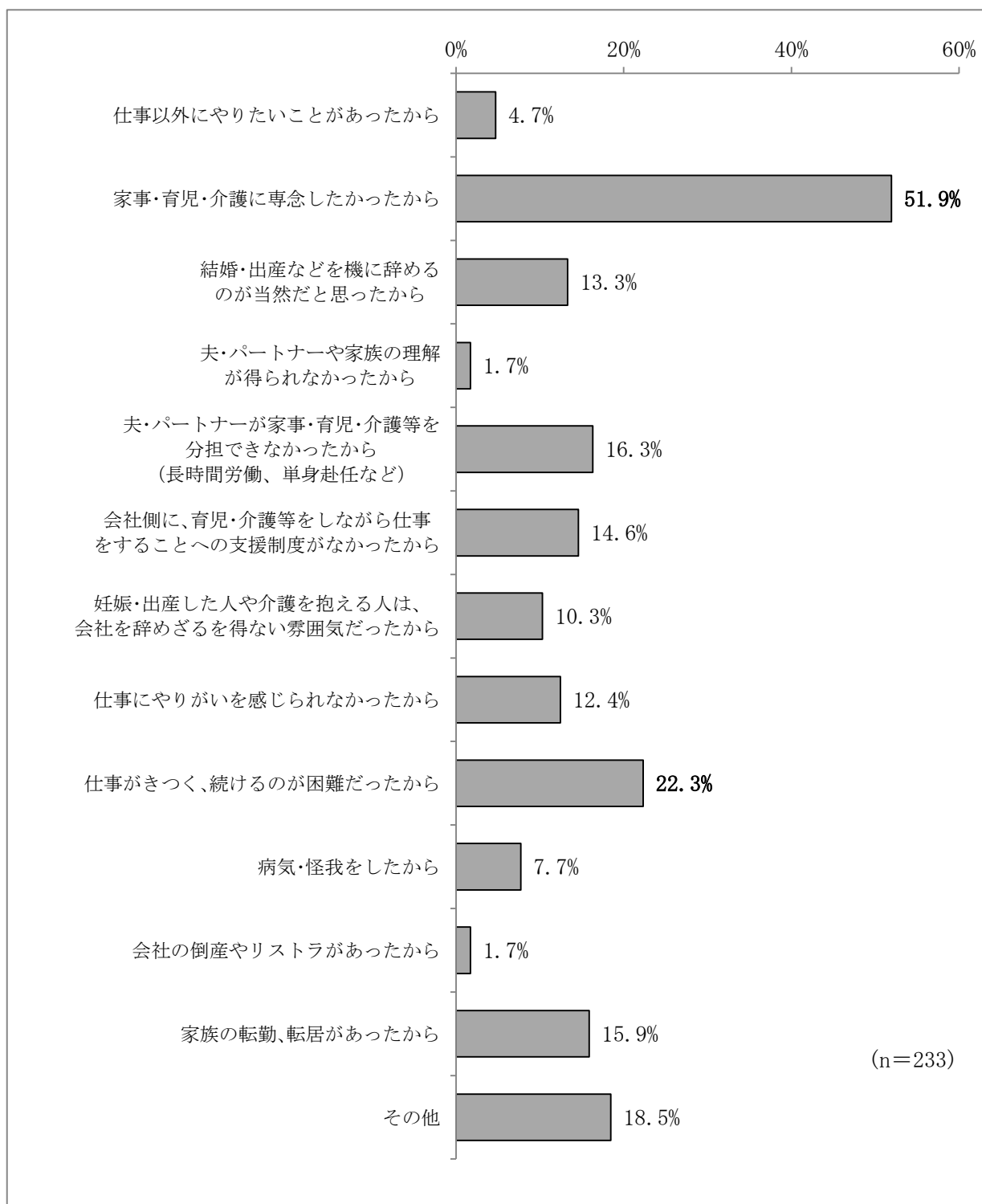
図表3-(1) 年齢別 仕事を辞めた時期



4 仕事を辞めた理由（問4）

過去に仕事の経験のある人（233人）に、仕事を辞めた理由をたずねたところ、「家事・育児・介護に専念したかったから」（51.9%）が最も多かった。これは、次に多かった「仕事がきつく、続けるのが困難だったから」（22.3%）を大きく引き離しており、ここでも、家事・育児・介護との両立が、女性の就業において大きな課題となっていることがうかがえる。

図表4 仕事を辞めた理由（3つまで複数回答）



(1) 前職の職種別にみた仕事を辞めた理由

前職の職種別に仕事を辞めた理由をみると、前職が専門・技術職、販売サービス職又は営業職だった人では、「仕事がきつく、続けるのが困難だったから」という理由が、全体よりも高くなっている。(全体 22.3%、専門・技術職 27.6%、販売サービス職 38.1%、営業職 45.5%)

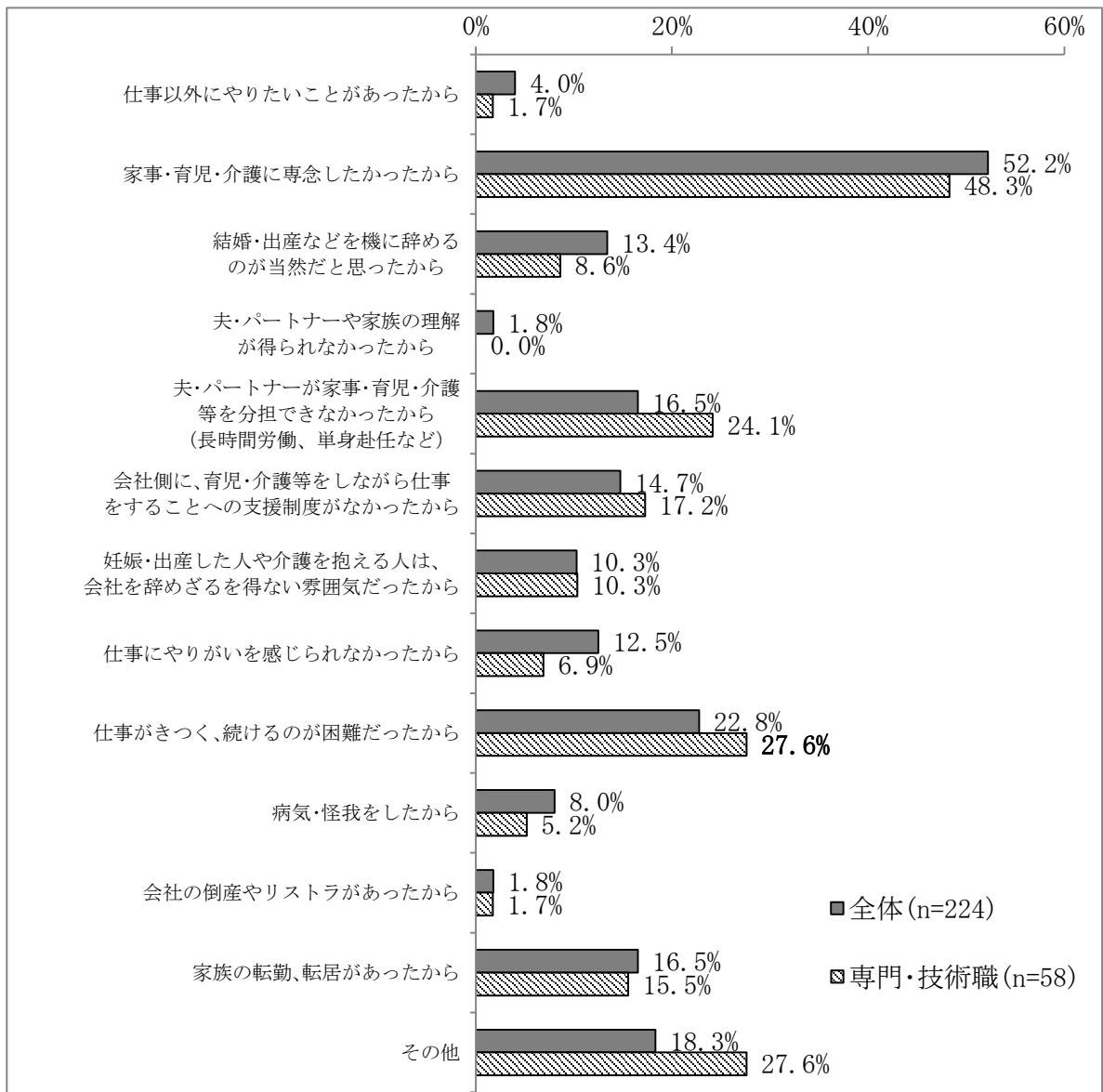
一方、前職が事務職だった人では、「仕事がきつく、続けるのが困難だったから」という理由は全体よりも低く (11.3%)、「家事・育児・介護に専念したかったから」という理由が、全体 (51.9%) よりも高くなっている (57.7%)。

図表 4-(1) 前職の職種別 仕事を辞めた理由 (3つまで複数回答)

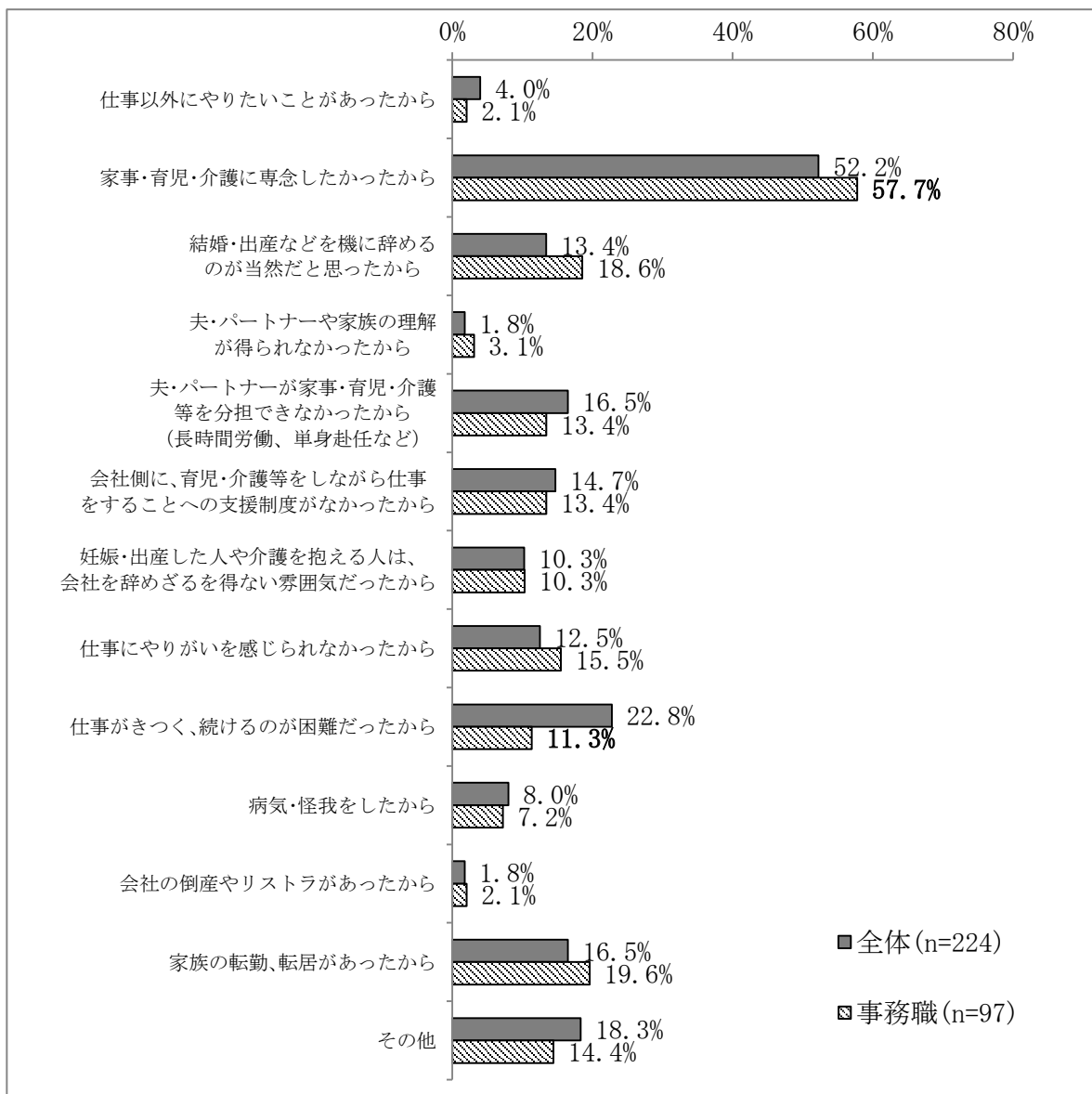
※前職の職種が経営層、管理職及び技能職 (工員・作業員等) の人については、クロス集計における基数が 10 未満であったため、掲載していない。

また、回答者の前職の職種については、図表 7 参照のこと。

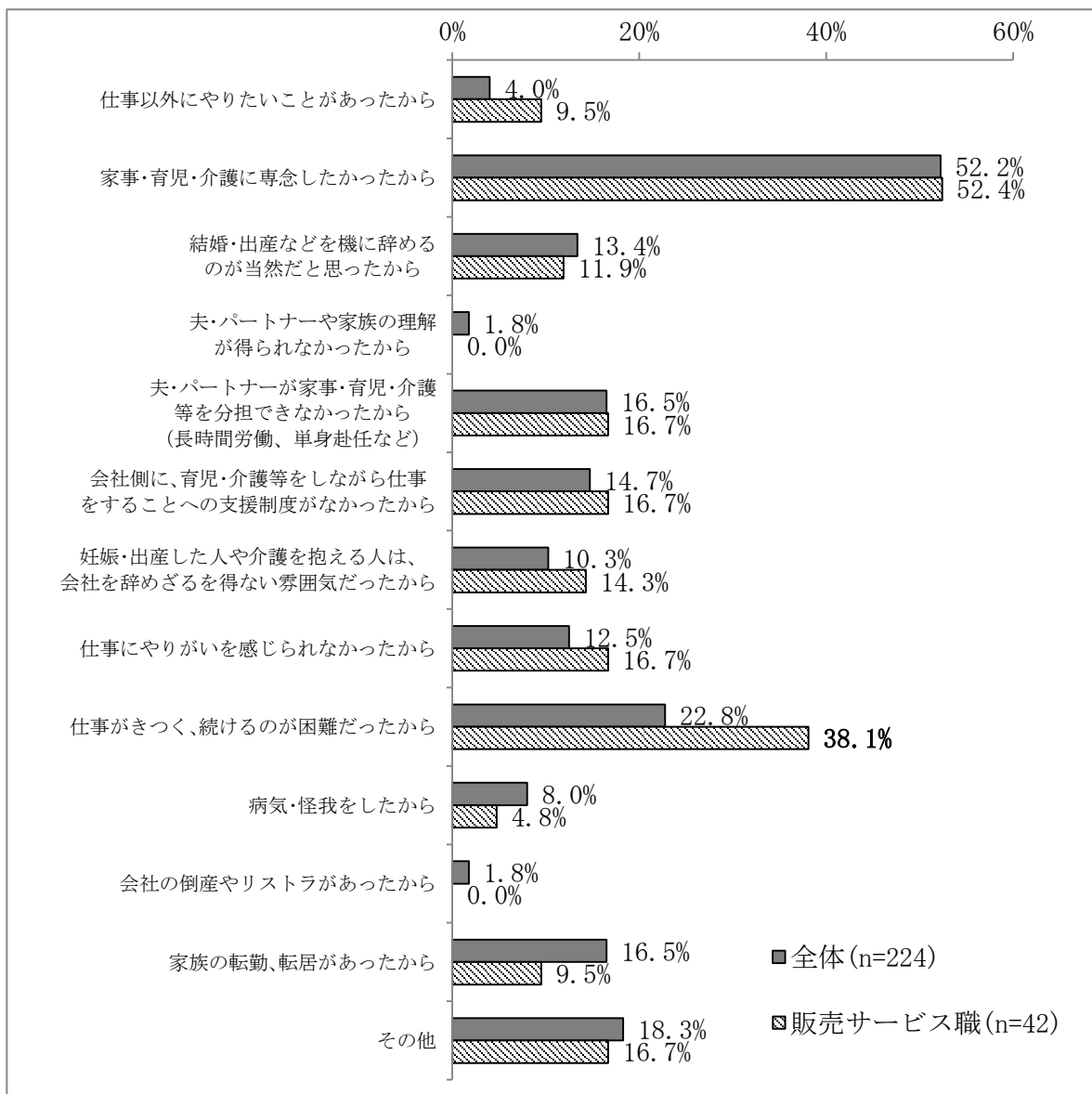
【専門・技術職】



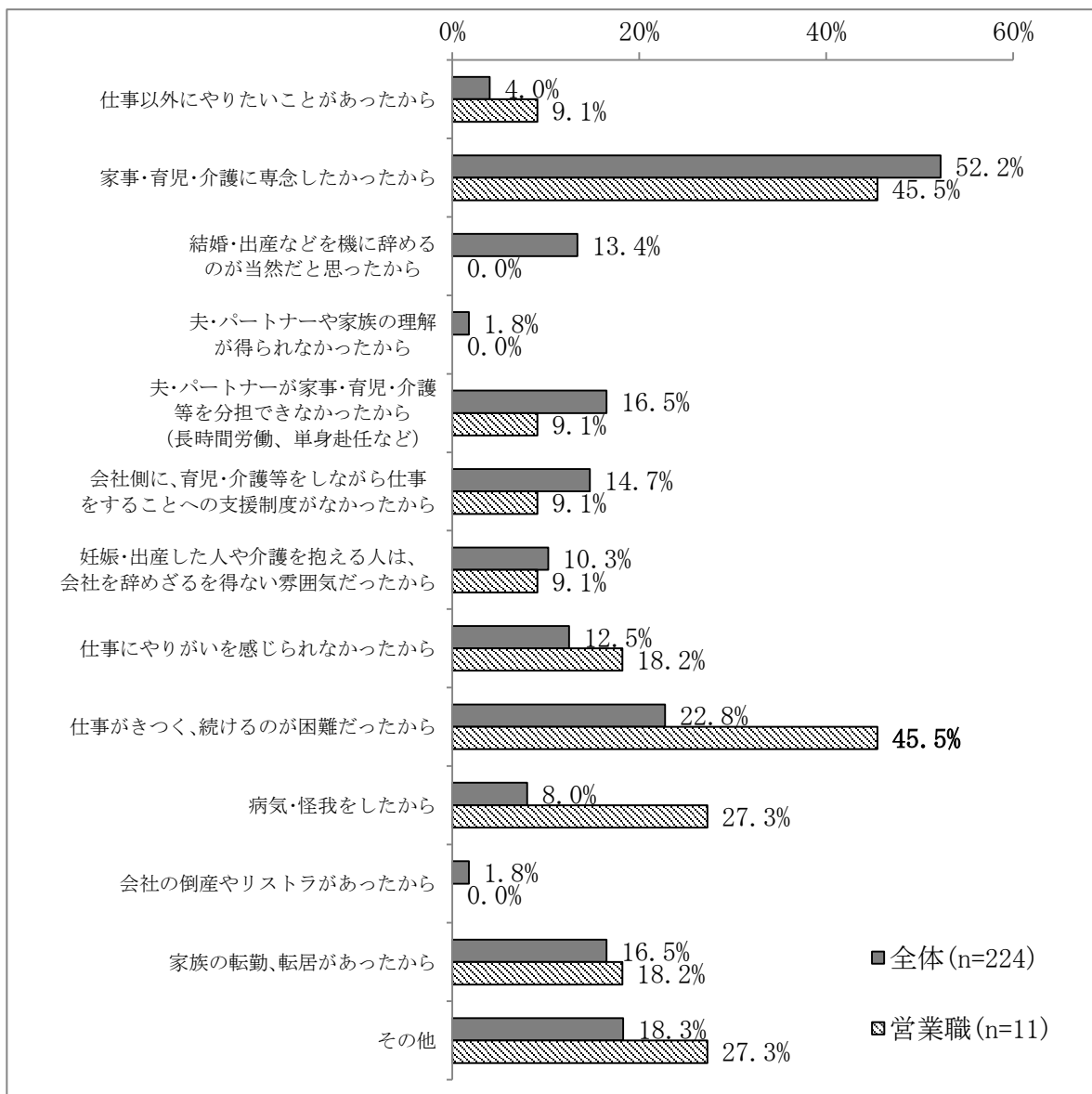
【事務職】



【販売サービス職】

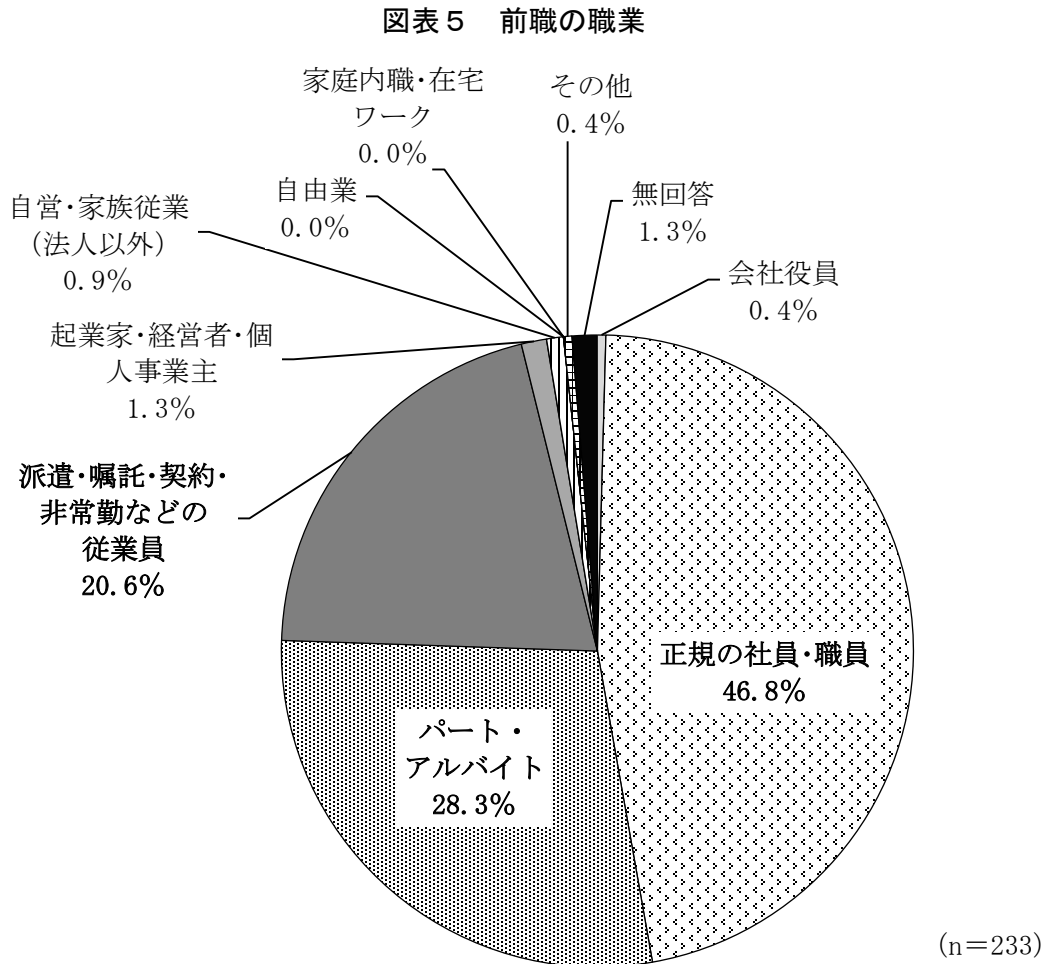


【営業職】



5 前職の職業（問5）

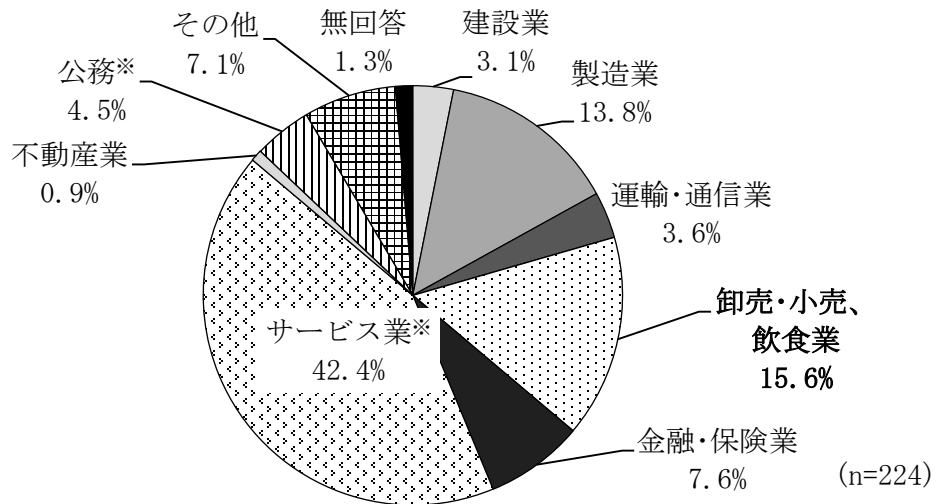
過去に仕事の経験のある人（233人）に、最後に就いていた職業をたずねたところ、「正規の社員・職員」（46.8%）が最も多く、次に「パート・アルバイト」（28.3%）、「派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員」（20.6%）であった。



6 前職の業種（問6）

過去に仕事の経験のある人（233人）のうち、前職の職業が「会社役員」、「正規の社員・職員」、「パート・アルバイト」又は「派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員」だった人（224人）に、最後に就いていた業種をたずねたところ、「サービス業（公務以外の医療、教育関係を含む。）」（42.4%）が最も多く、次に「卸売・小売、飲食業」（15.6%）、「製造業」13.8%であった。

図表6 前職の業種



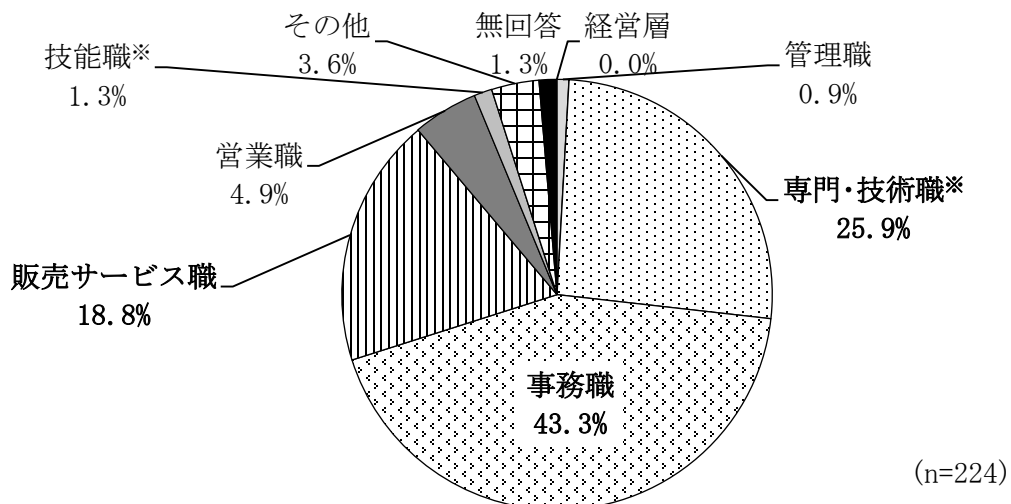
※サービス業：公務以外の医療、教育関係を含む。

公務：官公庁、警察など

7 前職の職種（問7）

過去に仕事の経験のある人（233人）のうち、前職の職業が「会社役員」、「正規の社員・職員」、「パート・アルバイト」又は「派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員」だった人（224人）に、最後に就いていた職種をたずねたところ、「事務職」（43.3%）が最も多く、次に「専門・技術職」（25.9%）、「販売サービス職」（18.8%）であった。

図表7 前職の職種



※専門・技術職：医師、看護師、薬剤師、技師、教員、保育士、介護士 など

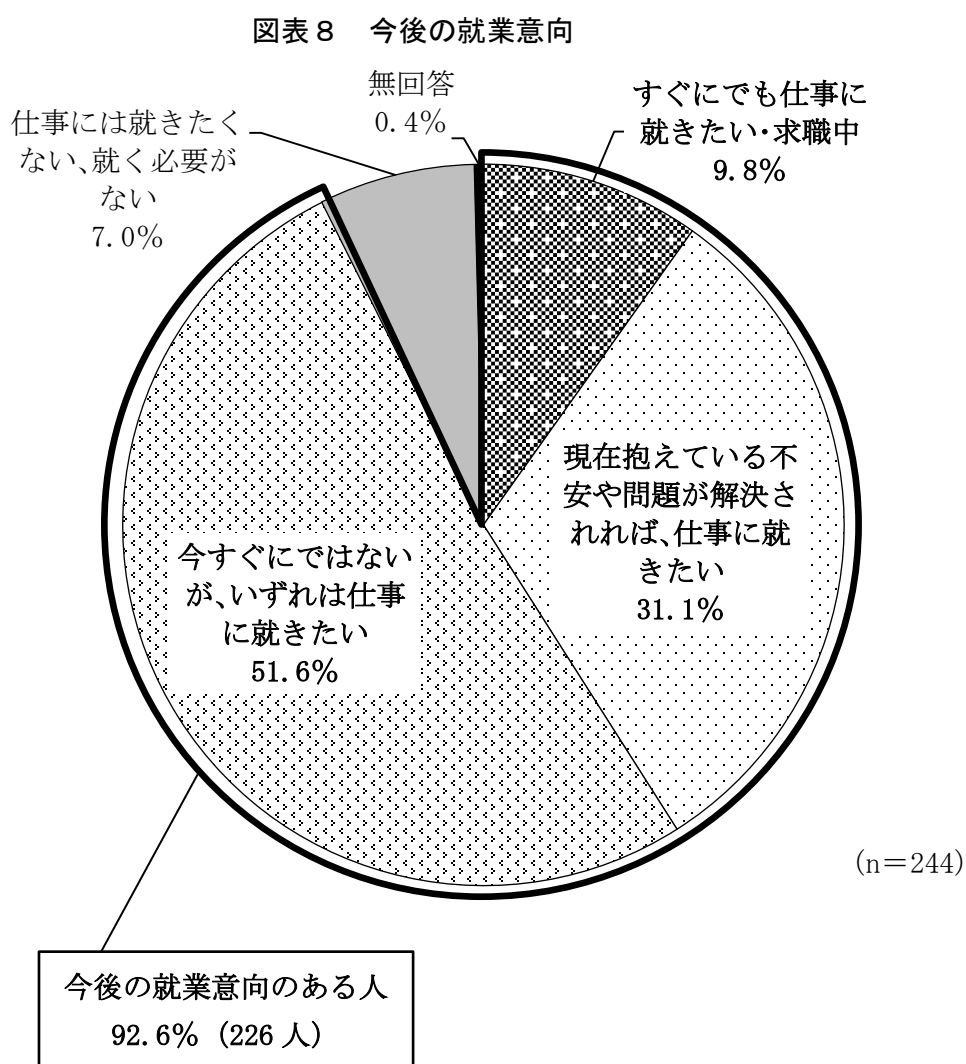
技能職：工具・作業員等

8 今後の就業意向（問8）

「現在、収入を伴う仕事をしていない」人（244人）に、今後の就業意向をたずねたところ、「今すぐにはではないが、いずれは仕事に就きたい」（51.6%）が最も多く、次に「現在抱えている不安や問題が解決されれば、仕事に就きたい」（31.1%）、「すぐにでも仕事に就きたい・求職中」（9.8%）であった。

以上を合わせると、今後の就業意向のある人は、92.6%にあたる226人となる。

※以下、「今後の就業意向のある人」＝「すぐにでも仕事に就きたい・求職中」、「現在抱えている不安や問題が解決されれば、仕事に就きたい」及び「今すぐにはではないが、いずれは仕事に就きたい」の合計とする。

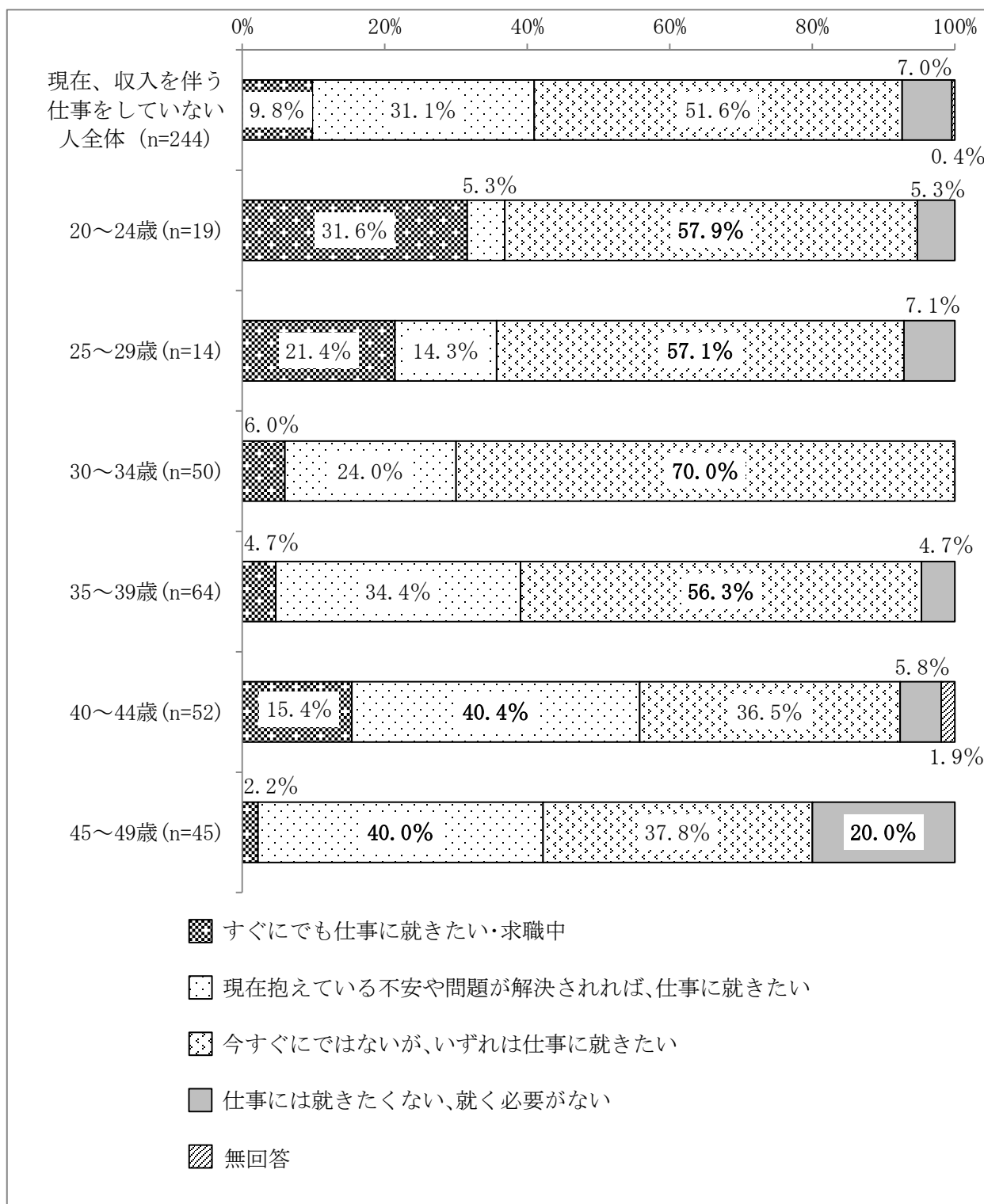


(1) 年齢別にみた今後の就業意向

年齢別にみると、20歳代及び30歳代では、「今すぐにはではないが、いずれは仕事に就きたい」人が最も多くなっているが、40歳代では、「現在抱えている不安や問題が解決されれば、仕事に就きたい」との回答が最も多くなっている。(40～44歳で40.4%、45～49歳で40.0%)

また、45歳～49歳では、「仕事には就きたくない、就く必要がない」人の割合(20.0%)が全体よりも高い。

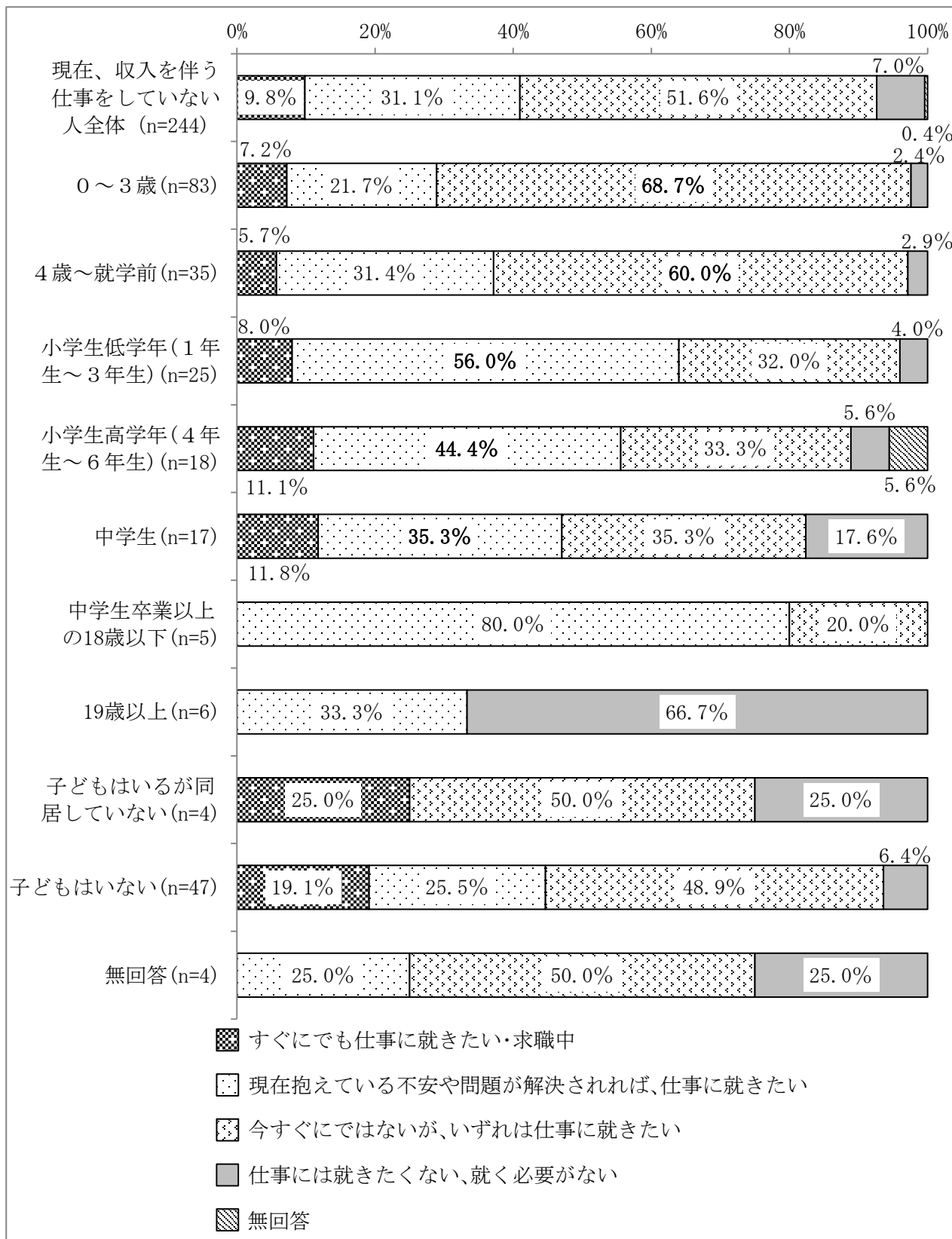
図表8-(1) 年齢別 今後の就業意向



(2) 末子の年齢別にみた今後の就業意向

末子の年齢別にみると、末子が未就学のうちは、「今すぐにはではないが、いずれは仕事に就きたい」人が最も多いが、小学生以上では、「現在抱えている不安や問題が解決されれば、仕事に就きたい」人の方が多くなっている。

図表 8-(2) 末子の年齢別 今後の就業意向

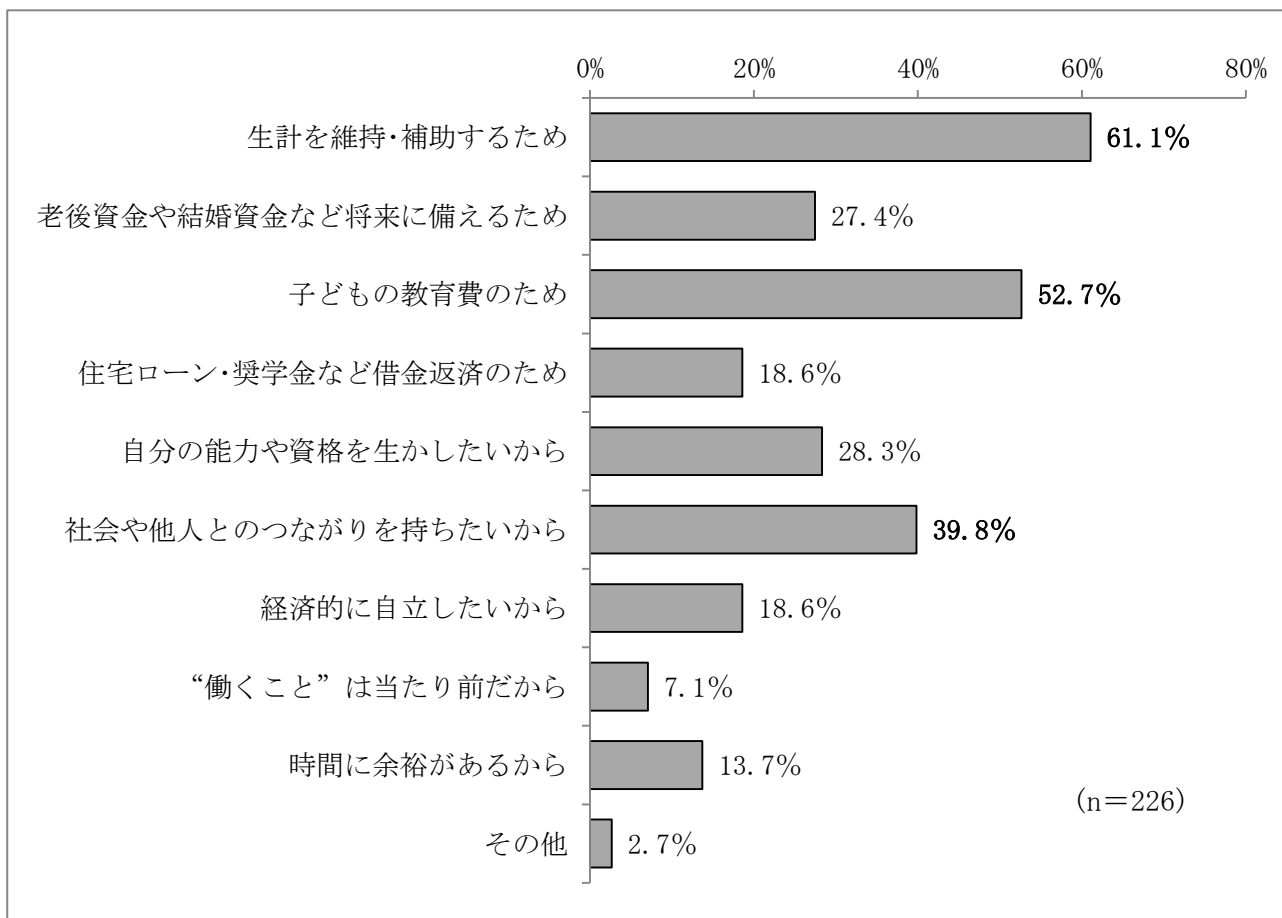


9 今後、就業したい理由（問9）

「現在、収入を伴う仕事をしていない」人（244人）のうち、今後の就業意向のある人（226人）に、再就職又は就職したい理由をたずねたところ、「生計を維持・補助するため」（61.1%）が最も多く、次いで「子どもの教育費のため」（52.7%）であり、いずれも5割を超える回答となった。

また、3番目に多い理由は、「社会や他人とのつながりを持ちたいから」（39.8%）であった。

図表9 今後、就業したい理由（3つまで複数回答）



(1) 年齢別にみた今後、就業したい理由

年齢別にみると、30歳代で特に、①「生計を維持・補助するため」の割合が高くなっている。(30～34歳で80.0%、35～39歳で63.9%) また、35～39歳及び40～44歳では、③「子どもの教育費のため」とする回答が最も多い。(35～39歳で68.9%、40～44歳で54.2%) ライフステージにより違いはあるが、40歳代前半までは、経済的な理由*が、働きたい主な動機となっていることが確認できる。

一方、45～49歳になると、⑥「社会や他人とのつながりを持ちたいから」(55.6%) が最も多く、経済的な理由よりも、社会等とのつながりを求めていることがうかがえる。

※経済的な理由：以下の4つをいう。

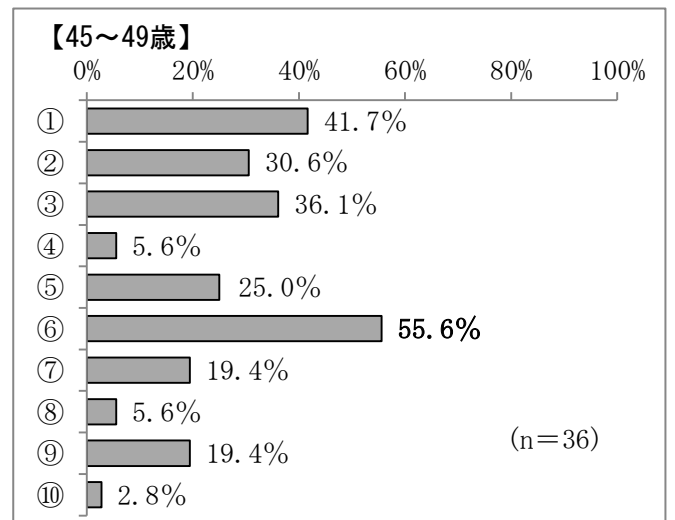
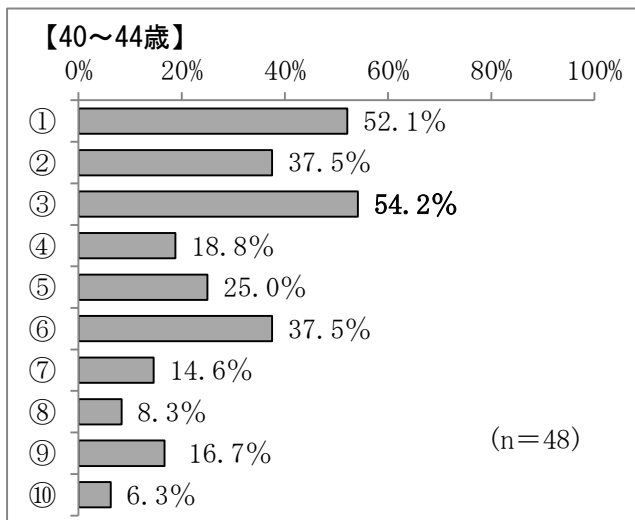
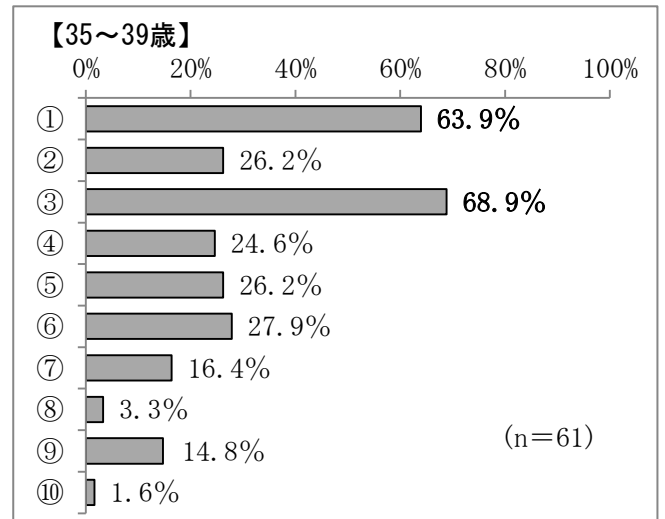
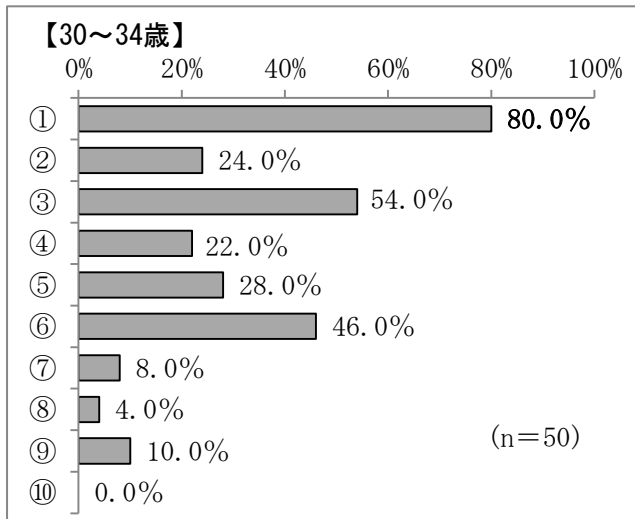
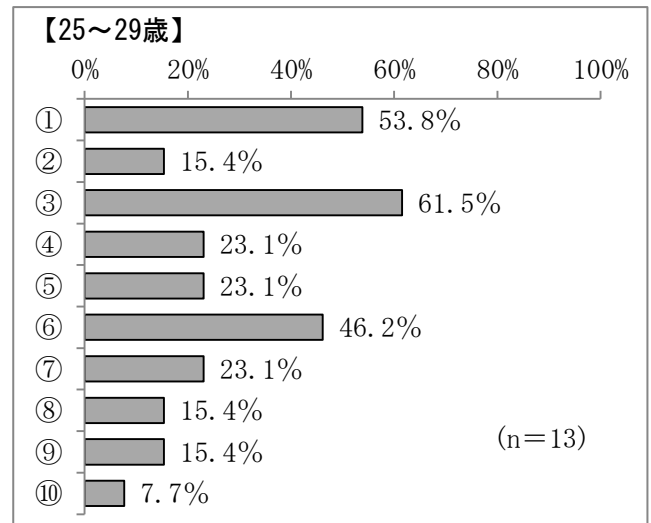
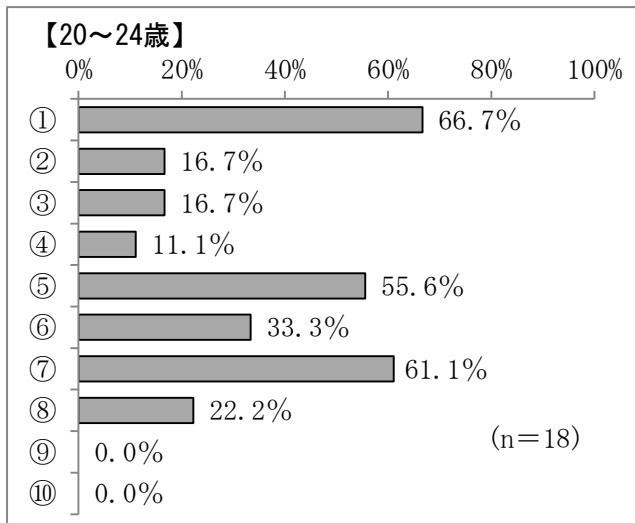
「生計を維持・補助するため」

「老後資金や結婚資金など将来に備えるため」

「子どもの教育費のため」

「住宅ローン・奨学金など借金返済のため」

図表9-(1) 年齢別 今後、就業したい理由（3つまで複数回答）



①生計を維持・補助するため、②老後資金や結婚資金など将来に備えるため、③子どもの教育費のため、④住宅ローン・奨学金など借金返済のため、⑤自分の能力や資格を生かしたいから、⑥社会や他人とのつながりを持ちたいから、⑦経済的に自立したいから、⑧“働くこと”は当たり前だから、⑨時間に余裕があるから、⑩その他

(2) 夫・パートナーの年収別にみた今後、就業したい理由

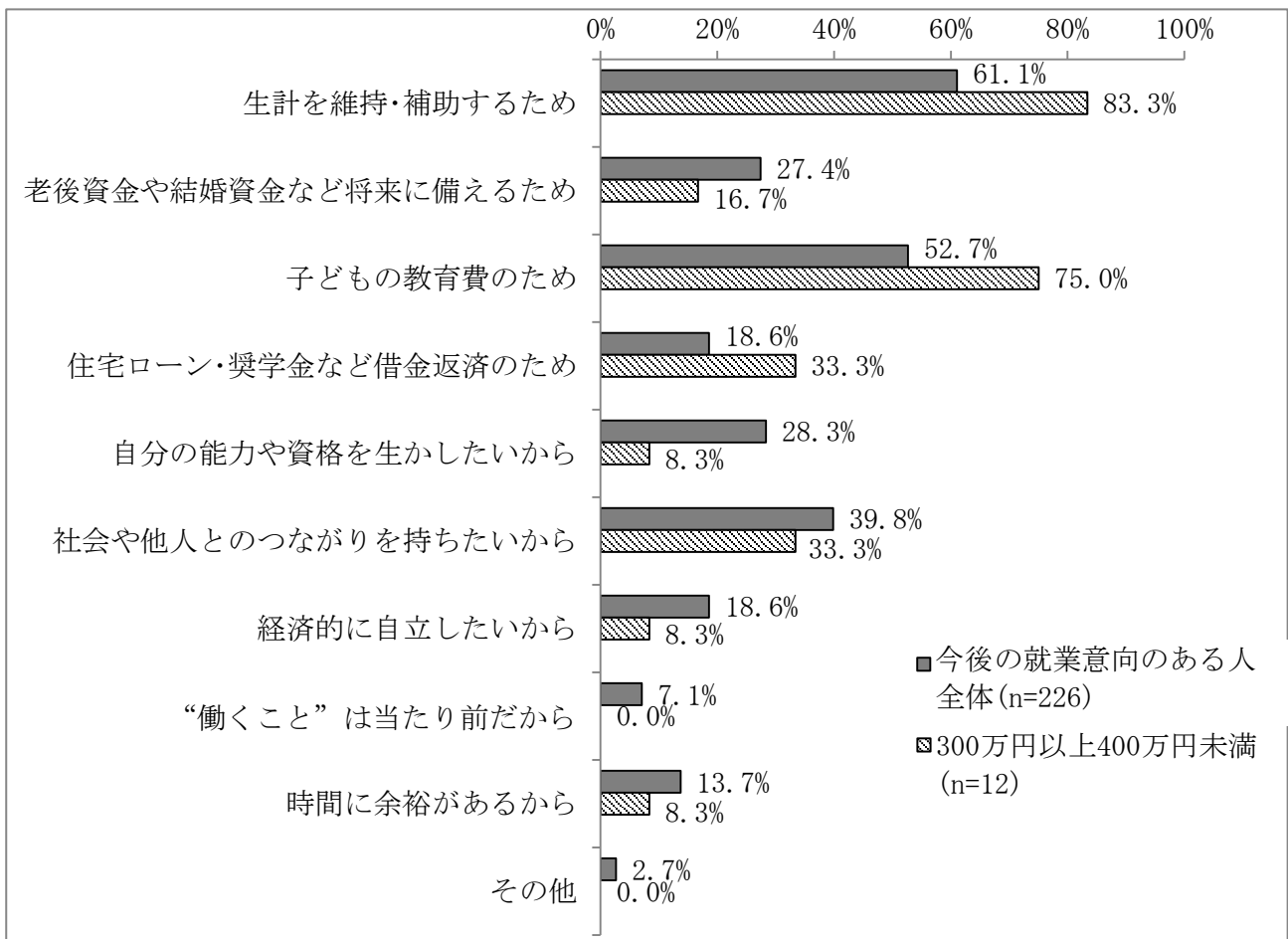
夫・パートナーの年収別にみると、夫・パートナーの年収が700万円未満の人では、経済的な理由が全体よりも高い傾向にある。

一方、夫・パートナーの年収が700万円以上の人では、経済的な理由よりも、「自分の能力や資格を生かしたいから」及び「社会や他人とのつながりを持ちたいから」を理由とする割合が全体に比べて高くなっている。

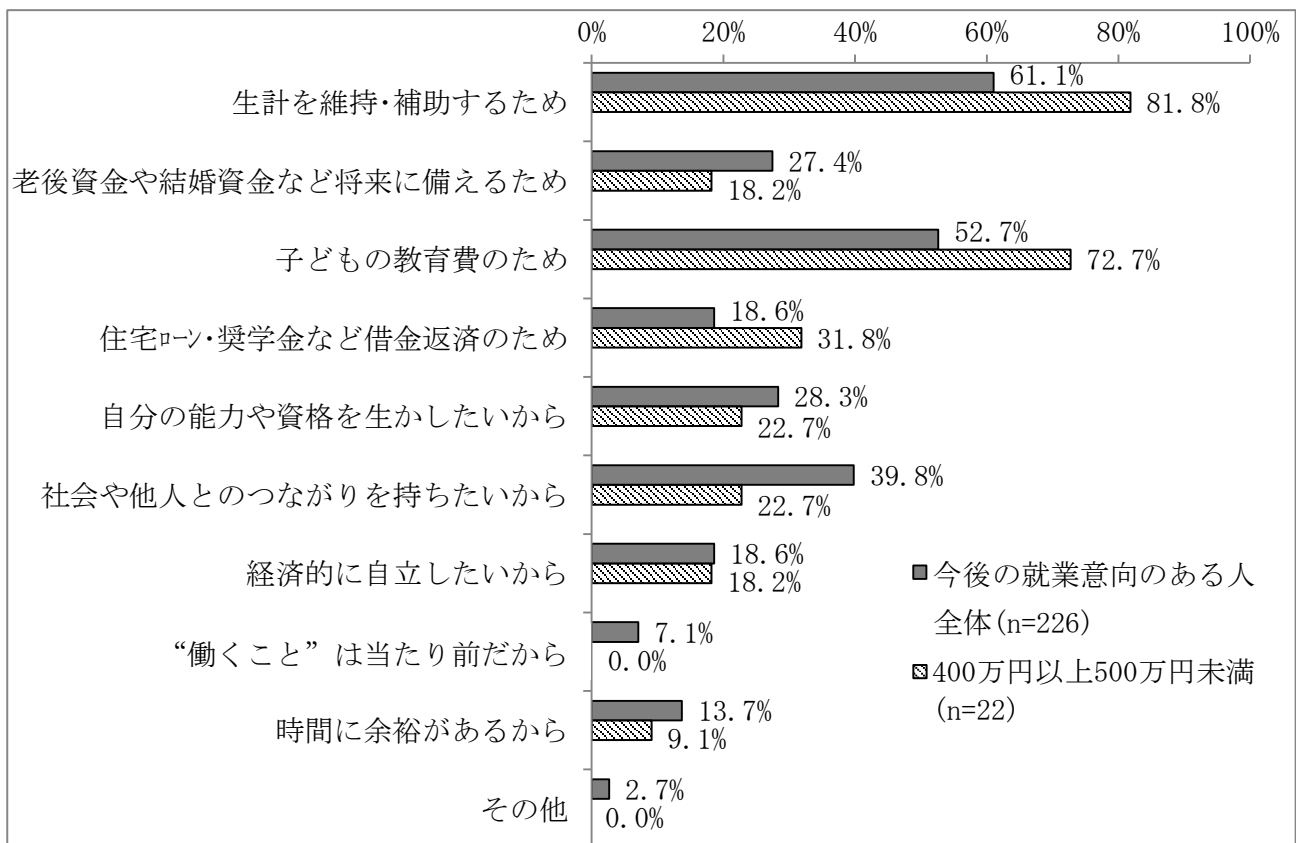
図表9-(2) 夫・パートナーの年収別 今後、就業したい理由（3つまで複数回答）

※夫・パートナーの年収が130万円未満、130万円以上200万円未満及び200万円以上300万円未満の人については、クロス集計における基数が10未満であったため、掲載していない。

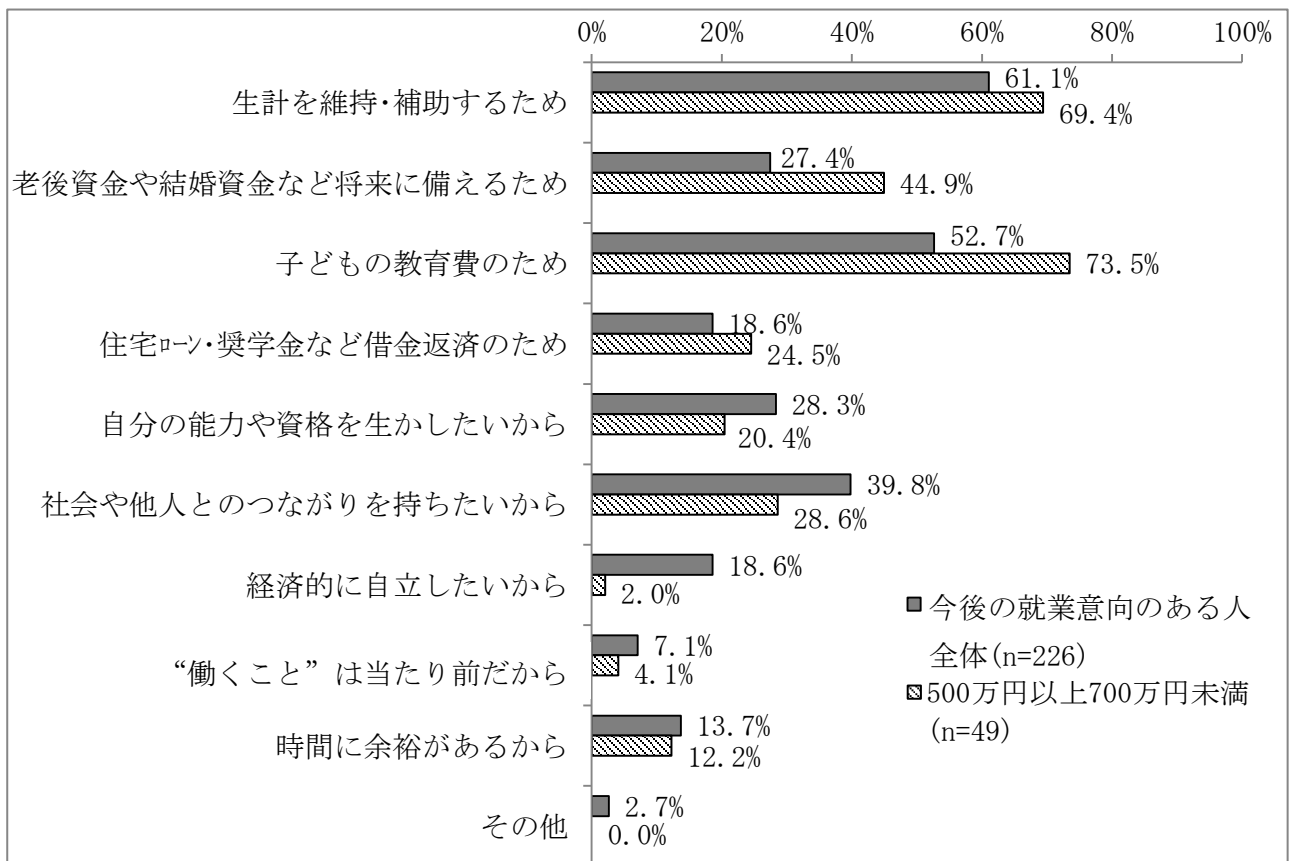
【300万円以上400万円未満】



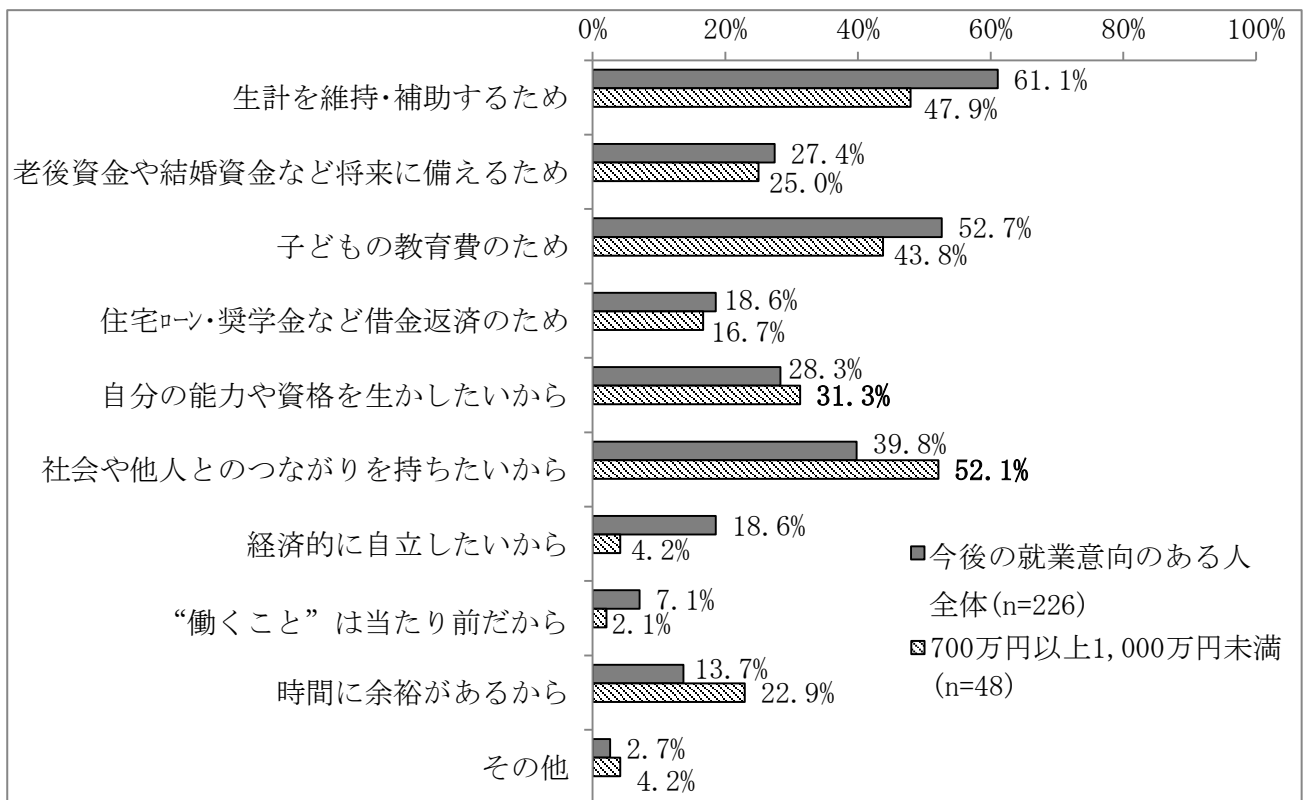
【400万円以上 500万円未満】



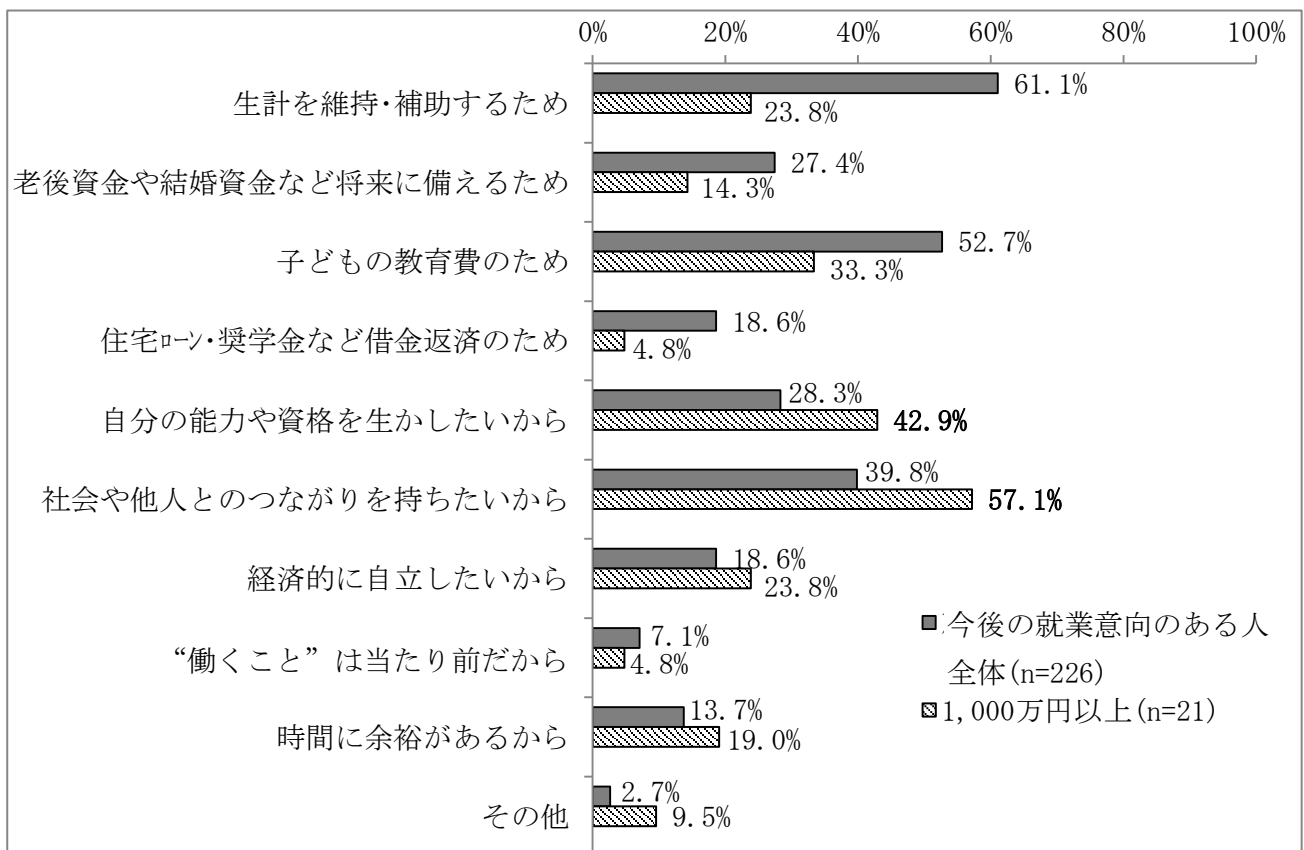
【500万円以上 700万円未満】



【700万円以上1,000万円未満】



【1,000万円以上】



10 今後、就業する場合の希望する働き方（問10）

「現在、収入を伴う仕事をしていない」人（244人）のうち、今後の就業意向のある人226人に、再就職又は就職する場合に希望する就業形態をたずねたところ、「パート・アルバイト」（50.9%）が最も多く、以下の「正規の社員・職員で短時間勤務」（15.9%）、「正規の社員・職員でフルタイム勤務」（15.0%）を大きく上回った。

フルタイム勤務※を希望する人は15.9%で、全体の2割に満たず、全体の8割近く（79.2%）は、短時間勤務※を希望している。

過去に収入を伴う仕事をしていたことがある人（233人）の前職の職業と比較すると、正規の社員・職員の割合は前職では46.8%だったが、希望する働き方では30.9%で、低くなっている。一方、パート・アルバイトについては、前職では28.3%であったが、希望する働き方では50.9%になっている。

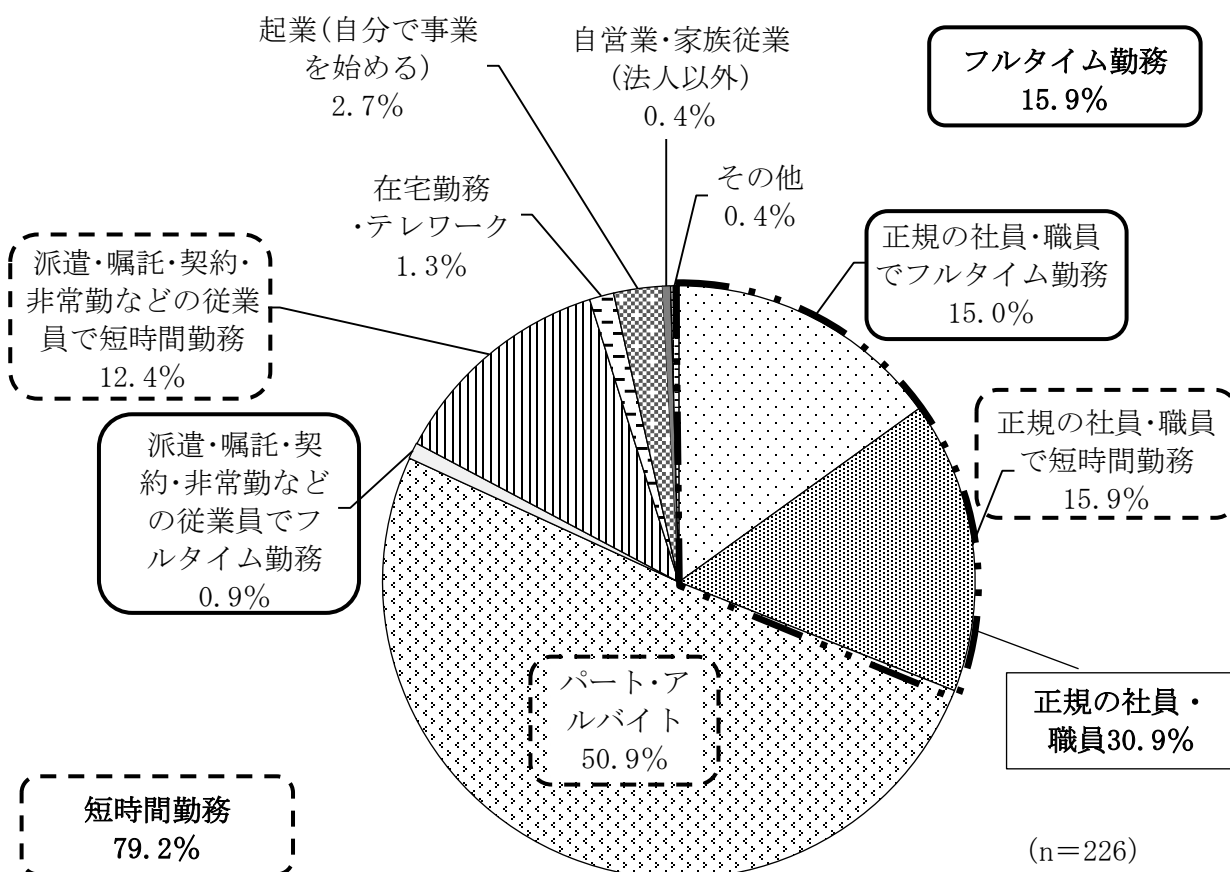
※フルタイム勤務：「正規の社員・職員でフルタイム勤務」及び「派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員でフルタイム勤務」の合計

（図表10において、実線枠で囲った部分）

短時間勤務：「正規の社員・職員で短時間勤務」、「パート・アルバイト」及び「派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員で短時間勤務」の合計

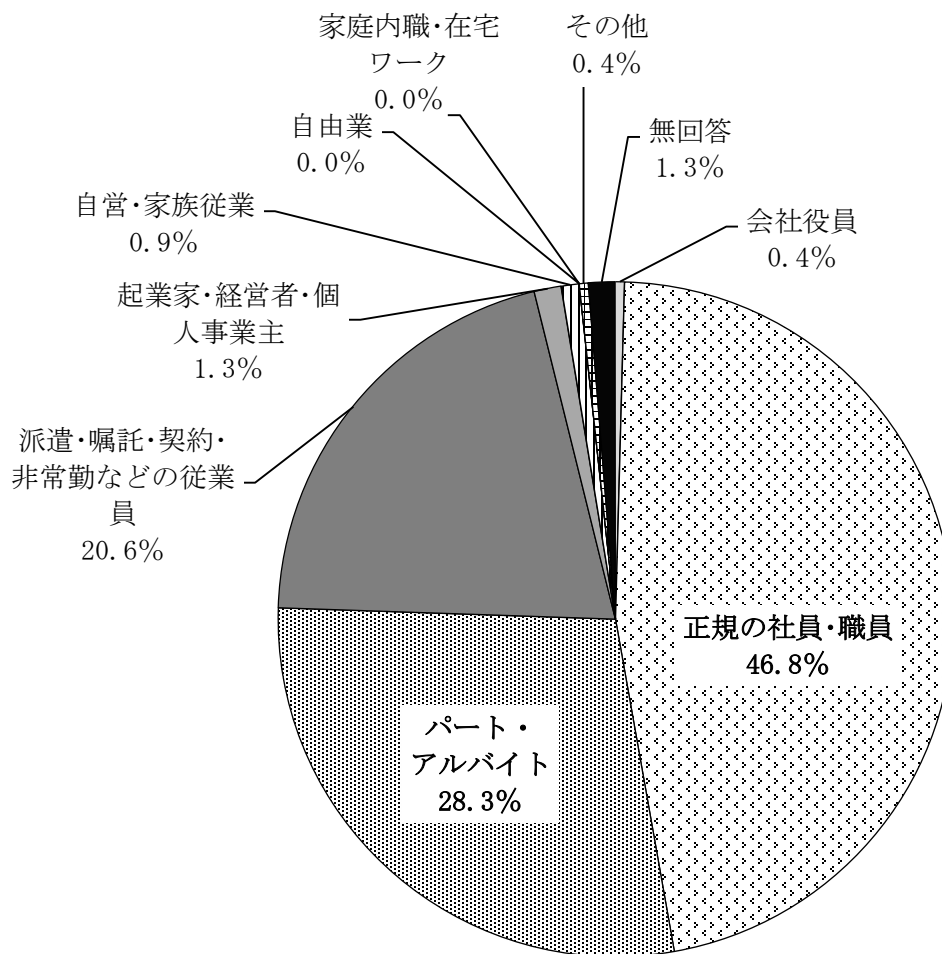
（図表10において、点線枠で囲った部分）

図表10 今後、就業する場合の希望する働き方



【参考 前職の職業】（図表5再掲）

（再掲）図表5 前職の職業



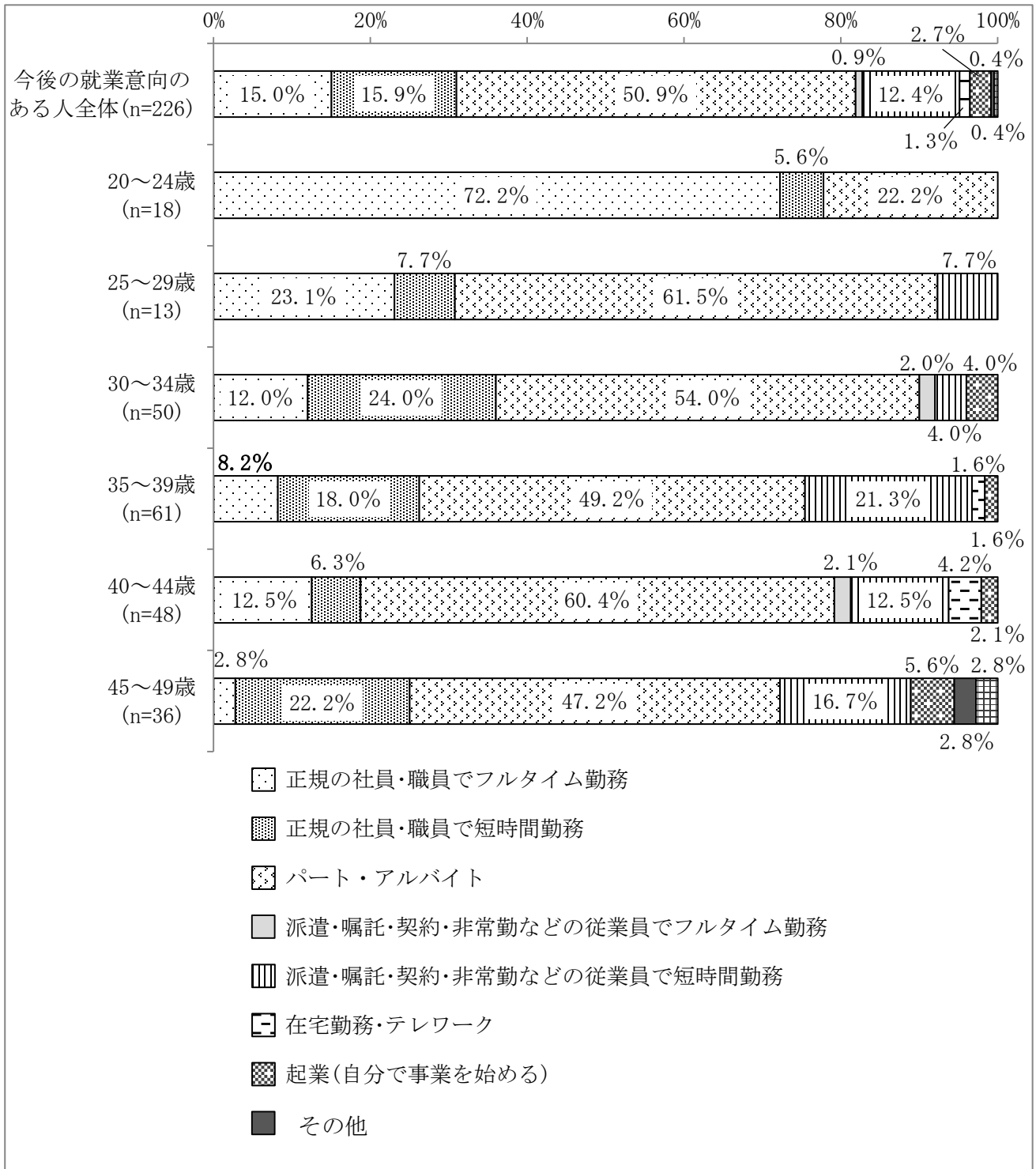
(n=233)

(1) 年齢別にみた、今後、就業する場合の希望する働き方

特に、年齢別にみると、35～39歳において、フルタイム勤務を希望している人の割合が8.2%と、割合が最も低くなっている。

35～39歳では、現在、仕事をしていない理由として、「家事・育児・介護等との両立に自信がないから」と回答した割合（57.8%）が全体（49.4%）よりも高い（図表2-(1)参照）ことから、この年代で、仕事と家事・育児・介護等との両立が困難であると感じている人が多いことがうかがえる。

図表 10-(1) 年齢別 今後、就業する場合の希望する働き方



(2) 今後、就業する場合の希望する働き方別にみた、現在、仕事をしていない理由

希望する働き方別に、現在、仕事をしていない理由をみると、「正規の社員・職員でフルタイム勤務」を希望する人では、「家事・育児・介護等に専念したいから」(13.0%)及び「家事・育児・介護等との両立に自信がないから」(26.1%)との回答の割合が、全体を大きく下回った。

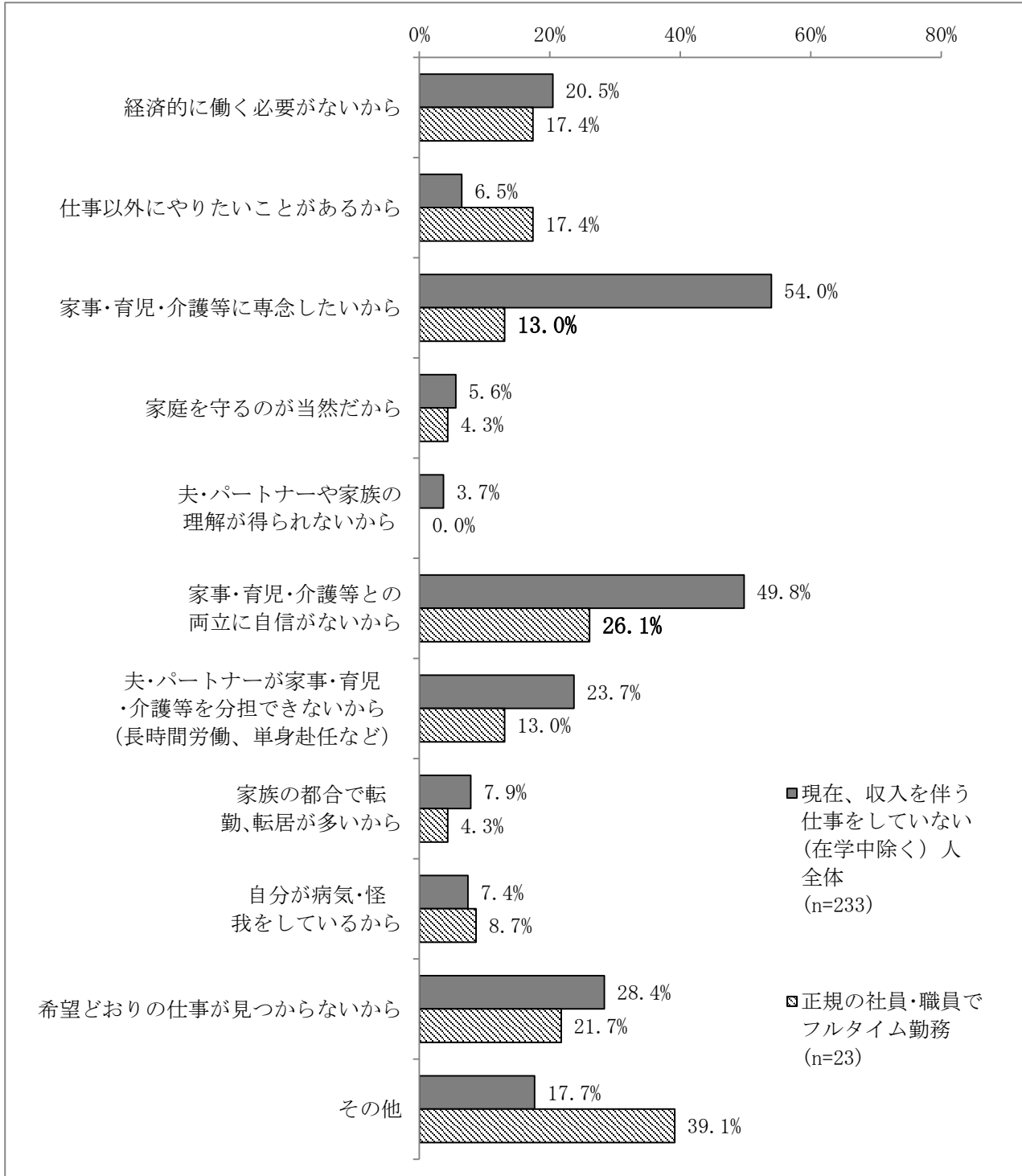
一方、「正規の社員・職員で短時間勤務」や「パート・アルバイト」を希望する人では、「家事・育児・介護等に専念したいから」及び「家事・育児・介護等との両立に自信がないから」との回答割合が全体を上回った。また、「派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員で短時間勤務」を希望する人では、「夫・パートナーが家事・育児・介護等を分担できないから（長時間労働、単身赴任など）」(50.0%)との回答が全体(23.7%)を大きく上回っている。

現在、仕事をしていない理由の中でも、家事・育児・介護等との両立が困難と考えている人ほど、短時間勤務を希望する傾向となっていることがうかがえる。

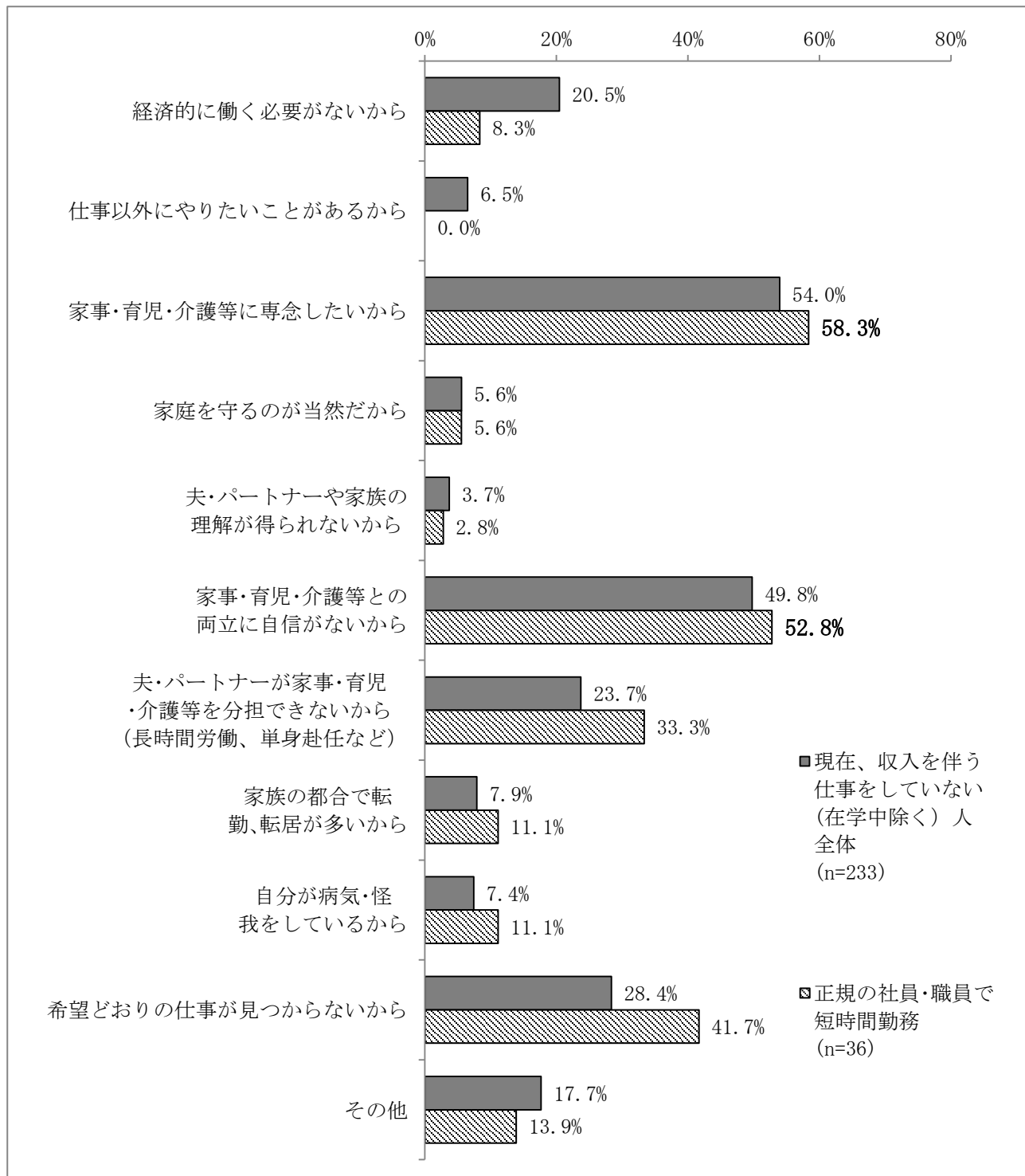
※派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員でフルタイム勤務、在宅勤務・テレワーク、起業、自営業・家族従業員(法人以外)については、クロス集計における基数が10未満であったため、掲載していない。

図表 10-(2) 今後、就業する場合の希望する働き方別
 現在、仕事をしていない理由（3つまで複数回答）

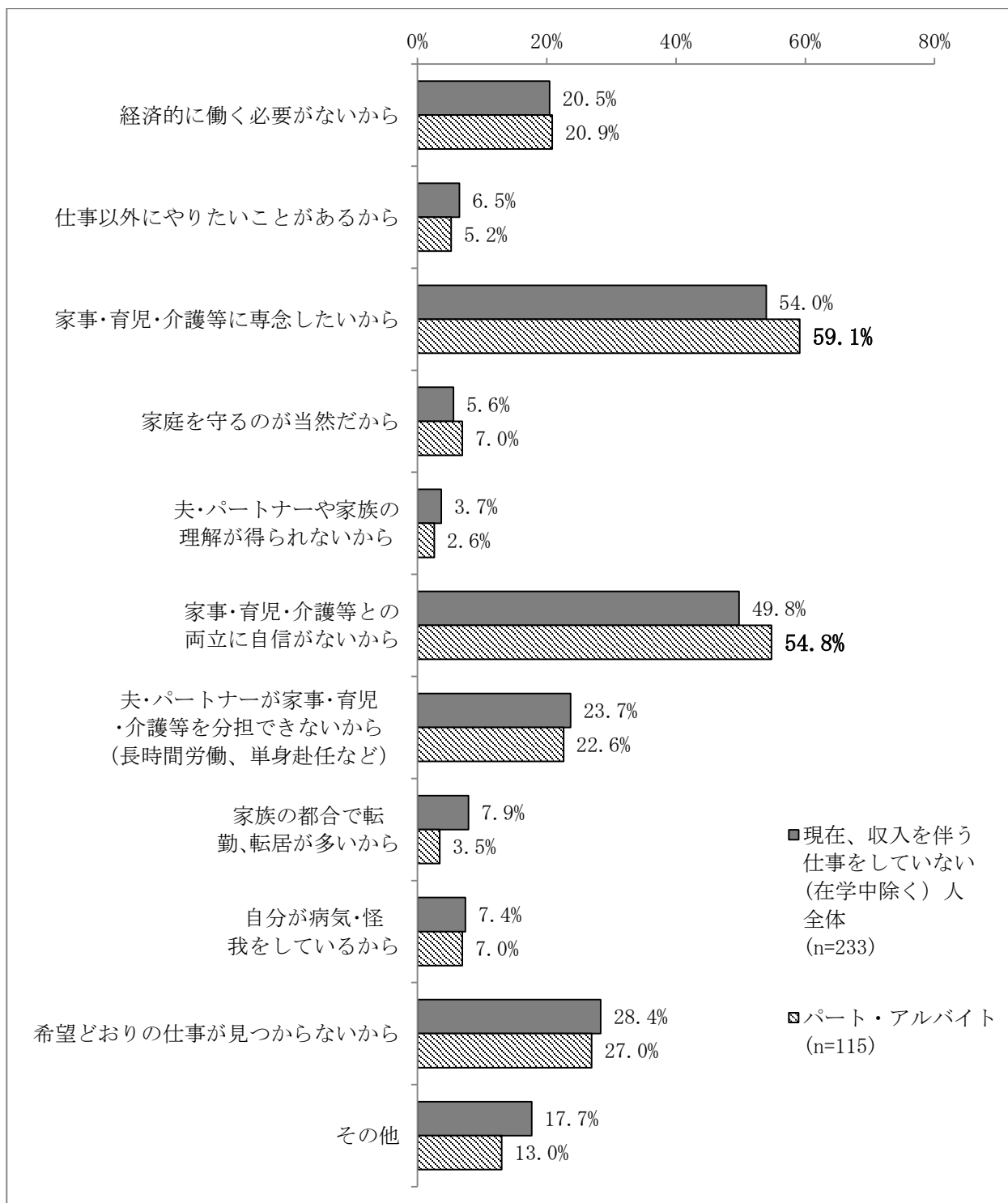
【正規の社員・職員でフルタイム勤務を希望する人】



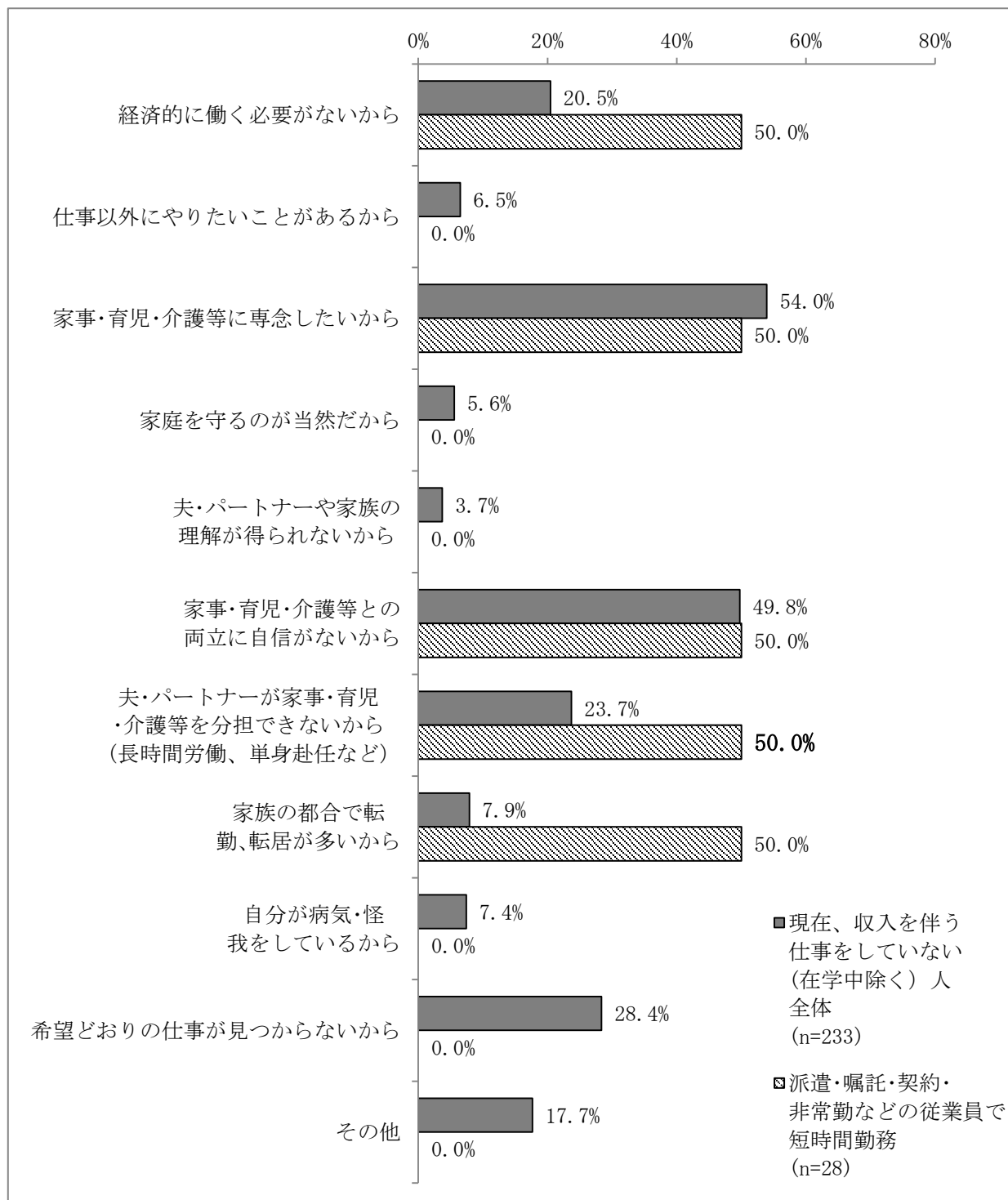
【正規の社員・職員で短時間勤務を希望する人】



【パート・アルバイトを希望する人】



【派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員で短時間勤務を希望する人】

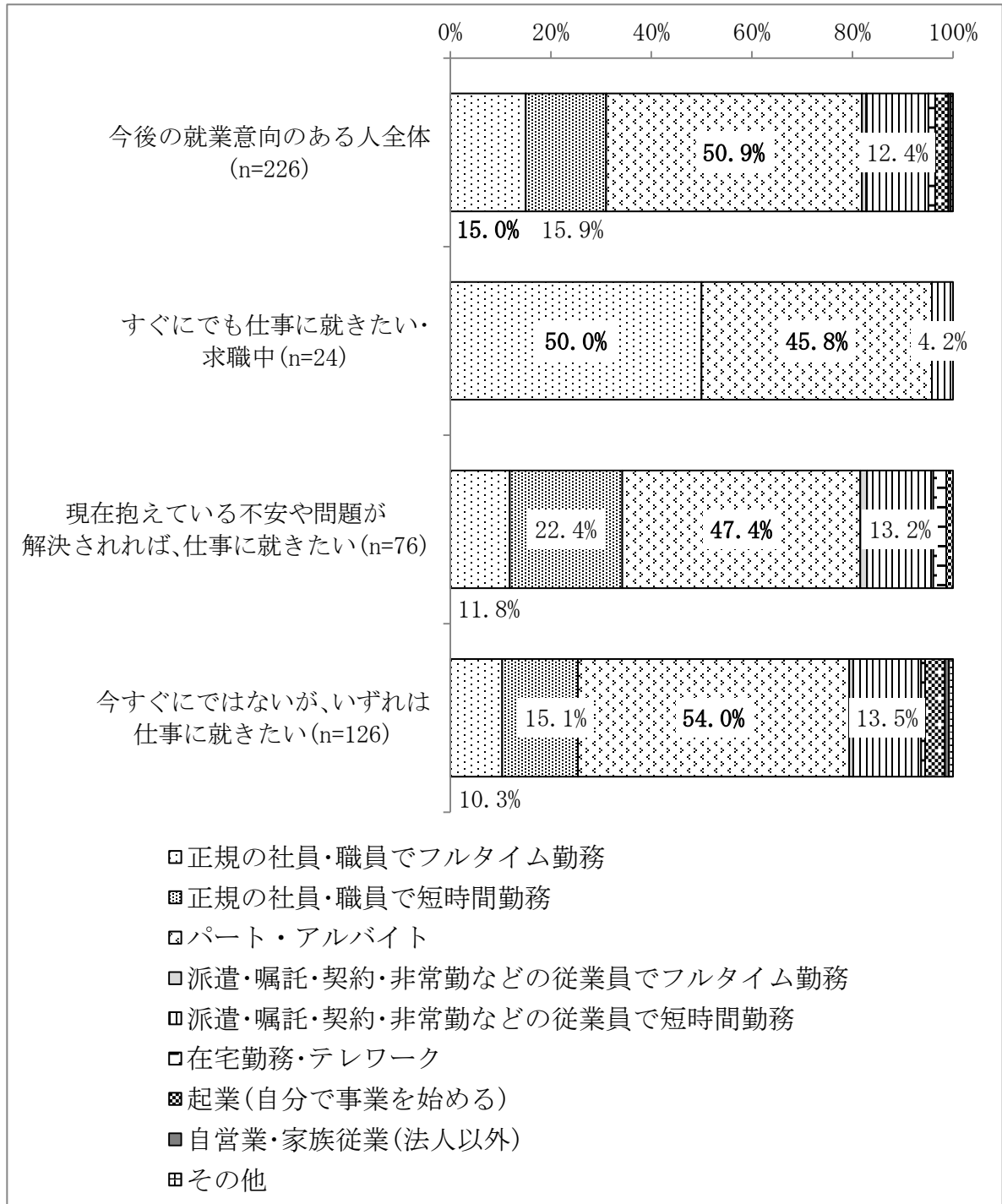


(3) 今後の就業意向別にみた今後、就業する場合の希望する働き方

今後の就業意向別にみると、「すぐにでも仕事に就きたい・求職中」の人は、「正規の社員・職員でフルタイム勤務」を希望する割合が高い。（「すぐにでも仕事に就きたい・求職中」の人 50.0%、今後の就業意向のある人全体 15.0%）

なお、就業意向の程度にかかわらず、5割前後の人が、「パート・アルバイト」を希望している。

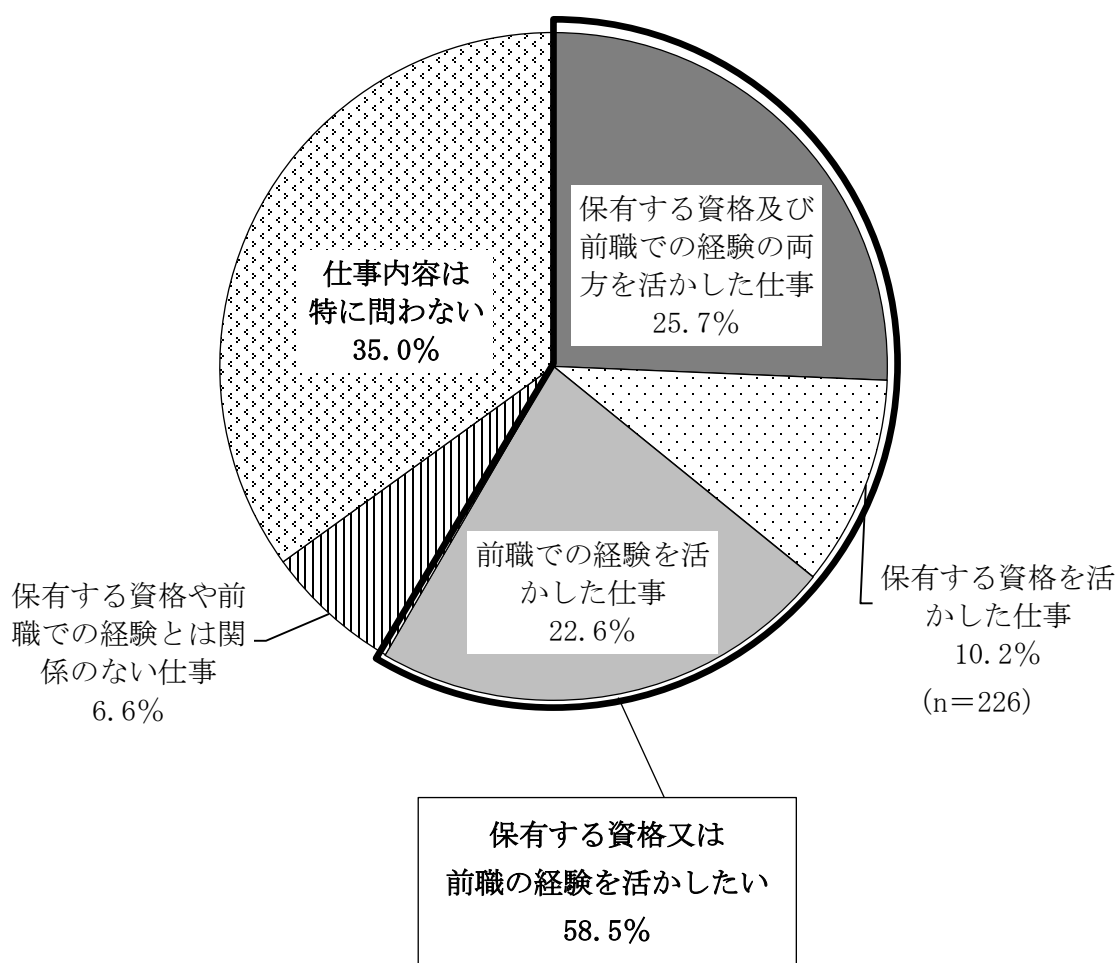
図表 10-(3) 今後の就業意向別 今後、就業する場合の希望する働き方



11 今後、就業する場合の希望する仕事内容（問 11）

「現在、収入を伴う仕事をしていない」人（244人）のうち、今後の就業意向のある人（226人）に、再就職又は就職する場合に希望する仕事内容をたずねたところ、「仕事内容は特に問わない」（35.0%）が最も多かったが、「保有する資格及び前職での経験の両方を活かした仕事」（25.7%）、「前職での経験を活かした仕事」（22.6%）及び「保有する資格を活かした仕事」（10.2%）の合計は58.5%となった。全体の6割近くが、就業する場合には、保有する資格又は前職の経験を活かしたいと考えている。

図表 11 今後、就業する場合の希望する仕事内容



12 現在保有している資格（問 12）

「現在、収入を伴う仕事をしていない」人（244 人）のうち、今後の就業意向のある人 226 人に、現在保有する資格をたずねたところ、次のような回答を得た。

図表 12 希望する仕事内容別 現在保有している資格

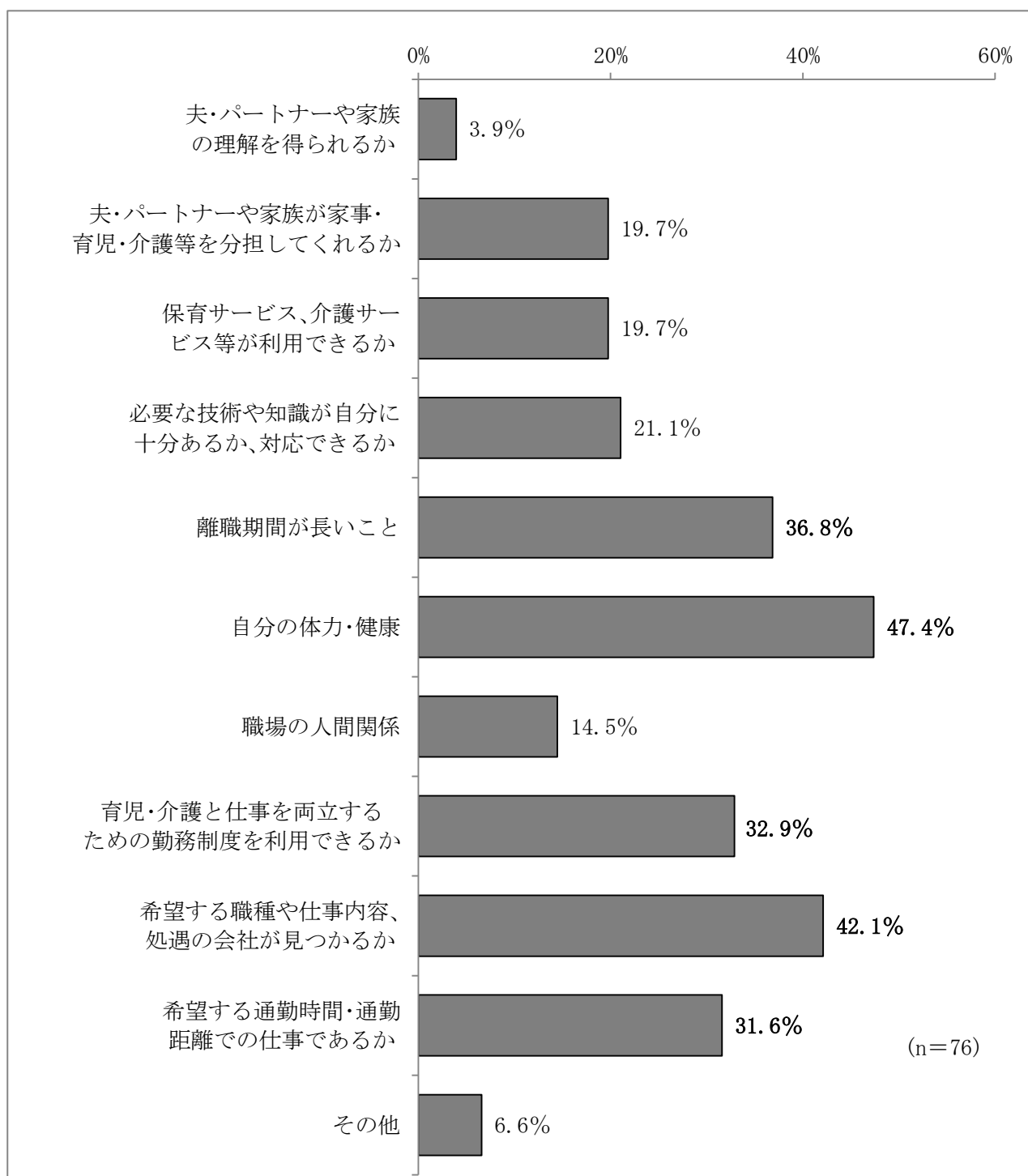
現在持っている資格	回答者数
教員教諭・保育士	35 人
簿記検定	10 人
調理師・栄養士	8 人
介護福祉士・ホームヘルパー	7 人
美容師・理容師	5 人
看護師	5 人
語学	5 人
秘書・医療事務	4 人
証券外務員	3 人
歯科衛生士	3 人
社会福祉士	3 人
ファイナンシャルプランナー	2 人
薬剤師	2 人
社会保険労務士	2 人
着付師・きもの着装コンサルタント	2 人
行政書士	1 人
建築士	1 人
整体師	1 人
図書館司書	1 人
パソコン	1 人
ピアノ講師	1 人
ベビーシッター	1 人
合計(延べ)*	103 人

*1 人で複数の資格を回答した人もいるため、図表 12 における各資格の回答者数の合計と、問 12 の回答者数は一致しない。

13 今後、仕事をする上で不安に思っていること、問題など（問 13）

「現在、収入を伴う仕事をしていない」人（244人）のうち、「現在抱えている不安や問題が解決されれば、仕事に就きたい」とした人（76人）に、今後、仕事をしようとする上で不安に思っていること、問題などをたずねたところ、最も多かったのが「自分の体力・健康」（47.4%）次いで「希望する職種や仕事内容、処遇の会社が見つかるか」（42.1%）であった。また、「離職期間が長いこと」（36.8%）、「育児・介護と仕事を両立するための勤務制度を利用できるか」（32.9%）、「希望する通勤時間・通勤距離での仕事であるか」（31.6%）も3割を超えている。

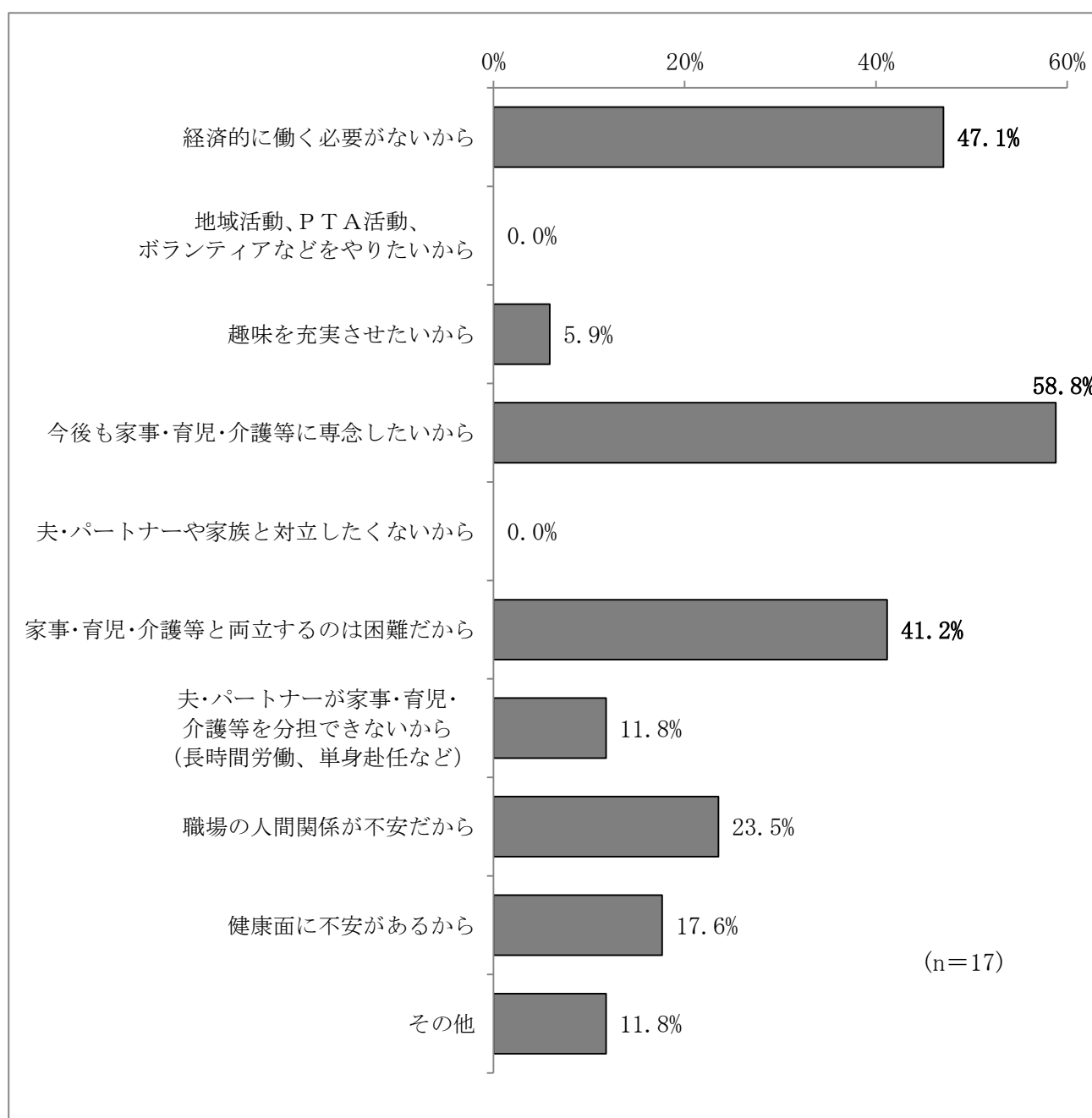
図表 13 今後、仕事をする上で不安に思っていること、問題など（3つまで複数回答）



14 就業を希望しない理由（問 14）

「現在、収入を伴う仕事をしていない」人（244人）のうち、「仕事に就きたくない、就く必要がない」とした人（17人）に、その理由をたずねたところ、「今後も家事・育児・介護等に専念したいから」（58.8%）が最も多く、次いで「経済的に働く必要がないから」（47.1%）、「家事・育児・介護等と両立するのは困難だから」（41.2%）となっている。

図表 14 就業を希望しない理由（3つまで複数回答）



15 就職・再就職するために必要だと思う行政からの支援（問 15）

「現在、収入を伴う仕事をしていない」人（244人）に、就職・再就職するために必要だと思う行政からの支援をたずねたところ、「女性の採用・登用や、育児・介護と仕事を両立するための勤務制度の整備・運用についての、企業への働きかけ」（69.3%）が最も多かった。次いで、「就職・再就職のための支援情報や求人に関する情報提供、求人元とのマッチング」（51.2%）、「保育・介護等に関する公的サービスの充実」（50.0%）となっている。

図表 15 就職・再就職するために必要だと思う行政からの支援（3つまで複数回答）

